

原 著

愛媛県総合科学博物館に保管されている高橋幸雄氏のクモ図譜

鶴崎展巨*・小林真吾**

Yoshio Takahashi's Illustrated Catalogue of Spiders Deposited in Ehime Prefectural Science Museum.

TSURUSAKI Nobuo and KOBAYASHI Shingo

Abstract : Yoshio Takahashi (1901-1977) is a naturalist who lived in Matsuyama City, Shikoku, Japan, and wrote "A provisional list of spiders from Ehime Prefecture, Nippon" (Acta Arachnologica, Vol. 4, pp. 146-152) in 1939. A series of colored illustrations of spiders that consist of a total of 231 plates which were mounted on mat boards and bundled into seven sets of binders were found among the collections relegated from Ehime Prefectural Museum, Matsuyama, to Ehime Prefectural Science Museum, Niihama, due to consolidation of the two museums in 2009. On the basis of the illustrations and short descriptions made directly on those figured plates, we identified a total of 127 species of spiders (Arachnida: Araneae) and 3 species of harvestmen (Arachnida: Opiliones) to species. Of these, *Ordgarius hobsoni* (O. P.-Cambridge, 1877) (Araneidae) and *Meotipa vesiculosa* (Simon, 1894) (Theridiidae) are the spiders that were collected by Yoshio Takahashi and were reported from Japan for the first time by Kyukichi Kishida in 1933 and Toshio Uyemura in 1939, respectively. "*Micaria takahashii* Kishida" nom. nud., which was a name given by Kishida but whose description had never been published, was safely identified as *Phrurolithus pennatus* Yaginuma, 1969 (Corinnidae). We present a full list of those species taxonomically arranged with their illustrations made by Yoshio Takahashi. A brief biography of Mr. Yoshio Takahashi is also presented.

キーワード : クモ目, ザトウムシ目, 愛媛県, 高橋幸雄氏, 動物相, 研究史

Key words: Araneae, Opiliones, Ehime Prefecture, Yoshio Takahashi, fauna, biography

高橋幸雄氏(1901-1967)は1930年代に愛媛県松山市福角町(ふくずみちょう: 1940年7月までは温泉郡堀江村)に在住し、「愛媛県産蜘蛛目録」(高橋, 1939)の著作があるクモの研究家である。松山市にあった愛媛県立博物館は2009年3月に閉館し、新居浜市の愛媛県総合科学博物館に統合されたが、その際に移管された資料類の中に、手書きで彩色されたクモの図譜7冊が見つかった。植物標本の台紙に、図版と標本の採集日時・場所、特徴などを記したA5サイズの紙が貼付されたもので、各冊の図版数は10から50枚までばらつくが総計231枚である。各冊表紙に Y. Takahashi の署名があること、表紙に「蜘蛛類 温泉郡堀江村 高橋幸雄」と書かれたガリ版刷りの冊子(縦書き、表紙をのぞいて5ページ、内容はクモの種の和名の一覧)があること、採集地に「堀江」や「福角」が多く含まれること、などから、これらが高橋氏の手によるものであることが確実である。残念ながら「愛媛県産蜘蛛目

録」は採集地などの情報を含まない種名のみでのリストであったため、松山市のレッドデータブック発行に合わせて出版された「松山市野生動植物目録」に掲載のクモのリスト(鶴崎, 2002b)にはそのデータを活用できなかった(鶴崎, 2002a)。したがって、採集地や日付(残念ながら年が不詳のものが多い)が記された本資料の意義は高い。図に添えられた種名には現在は使用されていないものも多いが、図や採集地などを参考に再同定したところ、種まで判定できたものはクモ127種、ザトウムシ3種であった。

本稿では、種まで同定できた全種の図をそれらに記された採集データとともに掲載し、いくつかの重要種について解説する。また、本稿を準備中、高橋幸雄氏のご家族が現在も松山市福角町におられることが判明し、ご子息より同氏の略歴などの情報をいただいたので、それについてもふれる。

* 鳥取大学地域学部生物学研究室 (〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101, E-mail: ntsuru@rstu.jp)

** 愛媛県総合科学博物館 自然研究科

* Laboratory of Biology, Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan. E-mail: ntsuru@rstu.jp

** Curatorial Division, Ehime Pref. Science Museum

図譜の概要

高橋幸雄氏が「愛媛県産蜘蛛目録」のまえがきに書いているように、同氏は1932年頃から1939年頃まで松山市福角町付近でクモを採集し、はじめは、当時、日本のクモの研究において指導的地位にあった岸田久吉氏(1888-1968)に、のちには東亜蜘蛛学会(現在、日本蜘蛛学会)の機関誌である「Acta Arachnologica」の編集を担当していた植村利夫氏(1909-1988)に種名同定で指導を仰いだようである。当時は、日本語で書かれたクモの同定の参考書としては、北隆館発行の日本動物図鑑(岸田、1927)と湯原清次著「蜘蛛の研究」(湯原、1931)くらいしかなく、専門家に標本を送って同定を乞うことがクモの種名を知るうえで重要な手段であった。この図譜を構成する各図の多くは、おそらく高橋氏が、標本を専門家に送る前に手元の控えとして彩色画として描いたもので、それらをまとめて出版するといった意図はとくにはなかったものと推察される。その理由として、ジョロウグモやナガコガネグモなど、特徴のはっきりした最普通種が1枚も描かれていないことが挙げられる。

各図はA5判のケント紙をたてに用いて、実物の2～3倍大でクモの歩脚を含む全形背面図を描いている。輪郭は鉛筆描きで、これに水彩絵の具で非常に細い筆を用いて彩色してある。図には非彩色だが眼域の図、また、側面観に特徴のある種については側面の輪郭図が添えられていることがある。眼域図はクモの頭胸部背面前方に通常8個ある(一部の分類群では6個)単眼の配置を示すもので、おもに科レベル(場合によっては属や種レベル)の同定に役立ち、クモの図鑑類ではよく描かれるものである。一部、図のかわりに網や卵囊のモノクロ写真が貼り付けられたものもある。

このA5判ケント紙は、それぞれさらにたて31.3 cm×よこ23 cm(A4よりわずかに大きい)の植物標本台紙に貼られている。これらは植物標本用の厚紙表紙(島津製作所標本部製品)で7冊に分けて束ねられている(図1)。うち6冊には表紙に上科(suprafamily = superfamily)と科(family)の名称を記したラベルが張られていた。ただし、表紙ラベルと中に含まれる図には、おそらく次の複数の理由の一つまたは複合により、かなり不一致があった: 1) 1930年代当時からの分類群の扱いの変更、2) 同定ミス、3) 高橋家に保管中、または、愛媛県立博物館で保管中に起きたかもしれない図の移動(図は綴じられてはいないので、注意していないとこれは容易に起こりうる)。したがって、各冊には分類群によってある程度まとまりがあるものの、中身はかなり入り乱れている。

これら7冊(整理のために便宜的にA～Gの記号を割り当てた)までの7冊の表紙に添えているタイトルと枚数、実際の内訳は次のとおりである:

A: Suprafam. Argiopoidea コガネグモ / Fam. Pisauridae
キシダグモ / Fam. Lycosidae ドクグモ / Fam. Oryopidae
(sic! 正しくはOxyopidae ササグモ / Fam. Agerenidae (sic!
正しくはAgelenidae) タナグモ / Suprafam. Clubionoidea
フクログモ / Fam. Thomisidae カニグモ / 37枚 (と書かれて
いるが36枚しか見つからず)。

【備考】 ほぼ新蛛亜目完性域類の二爪類と三爪類のコモリグモ上科で構成され、内訳は多い順にコモリグモ科6枚、フクログモ科5枚、キシダグモ科4枚、エビグモ科4枚、カニグモ科4枚、ネコグモ科3枚、などである。

B: Suprafam. Clubionoidea. フクログモ / Fam. Heteropodidae (sic! 正しくはHeteropodidae) (= Sparassidae (sic! 正しくはSparassidae) アシダカグモ / Fam. Ctenidae シボグモ / Fam. Drassidae. ワシグモ 11枚 (と書かれて
いるが13枚あり)。

【備考】 二爪類のフクログモ上科とワシグモ上科が主体で、アシダカグモ科3枚、ワシグモ科3枚、シボグモ科1枚、ヒメグモ科1枚、ネコグモ科1枚、キシダグモ科1枚、その他、ザトウムシ目3枚が含まれる。

C: Suprafam. Argiopoidea コガネグモ / Fam. Theridiidae
ヒメグモ / Fam. Linyphiidae サラグモ / Fam. Mimetidae セ
ンショウグモ / Fam. Pholcidae ユウレイグモ / Uroctidae
ヒラタグモ 26枚。

【備考】 新蛛亜目完性域類コガネグモ上科が主体で、ヒメグモ科11枚、サラグモ科9枚、コガネグモ科3枚、ユウレイグモ科2枚、ハエトリグモ科1枚。

D: Suprafam. Dipluroidea ジョウゴグモ / Fam. Atypidae
ジグモ / Suprafam. Dysderoidea イノシシグモ / Fam.
Dysderidae イノシシグモ / Fam. Dictynidae ハグモ / Fam.
Uloboridae ウズグモ / Suprafam. Argiopoidea コガネグモ /
Fam. Scytodidae ヤマシログモ / 枚数表示なし (17枚)。

【備考】 カニグモ科4枚、エビグモ科2枚、ウズグモ科3枚、ハグモ科2枚、ハエトリグモ科2枚、ジグモ科1枚、イトグモ科1枚、エンマグモ科1枚、ヒメグモ科1枚。

E: Suprafam. Argiopoidea / Fam. Argiopidae / 47枚 (実際には48枚あり)。

【備考】 円網グモ類(コガネグモ上科+メダマグモ上科ウズグモ科)のみで構成されている。内訳はコガネグモ科29枚、アシナガグモ科9枚、ヒメグモ科6枚、サラグモ科2枚(以上、コガネグモ上科)、ウズグモ科2枚。

F: Suprafam. Clubionoidea / Fam. Salticidae (= Attidae) / 47枚。

【備考】 ほとんどが二爪類。ハエトリグモ科42枚、ツチ



図1. 高橋幸雄氏クモ図譜. 図は植物標本用の厚紙表紙（島津製作所標本部製品）で7冊に分けて束ねられている. 中央の小さい白ラベル（左上から右下に向かってA～Gの記号をふった）は整理のために今回臨時に添付した着脱可能なラベル.

Fig. 1. Yoshio Takahashi's illustrated catalogue of spiders. Figure plates are bundled into 7 sets of binders.

フクログモ科2枚, カニグモ科1枚（以上は二爪類）, チリグモ科1枚, センショウグモ科1枚

G: 不明 / 47枚（44枚, 最後に添付の図なしの台紙3枚を入れると47枚）.

【備考】コガネグモ科13種, ハエトリグモ科9枚, ヒメグモ科6枚, ヤマシログモ科2枚, ユウレイグモ科1枚, センショウグモ科1枚, ウズグモ科1枚, カラカラグモ科1枚, サラグモ科2枚, コモリグモ科2枚, タナグモ科1枚, ガケジグモ科2枚, ツチフクログモ科1枚, フクログモ科1枚, ワシグモ科1枚.

研究史において興味もたれる種

資料には愛媛県のクモの研究史において興味深い種がいろいろと含まれていた. それらの中で, とくに興味深いもの数種について紹介する. なお, 「G04」, 「E40」などの記号は, アルファベットがその図が含まれている上記7分冊のファイルの記号を, 数字は先頭から数えた順番を指す（例: G04は, ファイルGの4枚目）.

1. マメイタイセキグモ（コガネグモ科）（図2 / G04）

本種, *Ordgarius hobsoni* (O. P. -Cambridge, 1877) は, 高橋氏が1932年8月28日に松山市高縄山で採集し, 岸田（1933）が日本新記録として報告したクモである. この報告は, 愛媛県のクモが登場する報文としてはイヨグモ（イヨグモ科）を紹介した岸田（1914）に次いで2番目のものであった（鶴崎, 2003）. 本種の図（G04）には「♀亜成体「*Ordgarius saosusus* Kishida マメイタイセキグモ. 8月28日高縄山7合目で採集. キブシ（マメブシ）の葉の裏

に脚をかくしてしずかにしていた.（中略）岸田先生が印度とセイロンの産であるを愚生の発見になりしものと」というメモがある. このメモから, 高橋氏は岸田久吉氏に標本を送る前にこの図を描き, 岸田氏の返信を受けてから図に種名とその内容を記述したものであると思われる. また岸田氏は本種をはじめインド～セイロン産の種とは別種と考え, 考えた種名（種小名 *saosusus* の意味は不明）を高橋氏に伝えたが, それを報文とする段階ではインド～セイロン産と同種と結論し, *Ordgarius hobsoni* として報告したようである.

本種は採集例の少ないクモであるが, これまでに関東地方以西の19県で記録されており（新海ら, 2010）, 愛媛県でもこれ以外の観察例がある.

2. ヒシガタヒメグモ（ヒメグモ科）（図3A / E40）

本種 *Meotipa vesiculosa* (Simon, 1894) は, 1937年8月に氏が堀江村で採集し, 植村利夫氏が同定・日本新記録として報告した（植村, 1939）. 国外ではフィリピン, ベトナム, 中国南部などで知られる南方系種で, 日本ではこれまでに愛知県以西の16県（沖縄県では未記録）で記録されているが採取例は少ない.

図譜中にヒシガタヒメグモと表示された図は2枚あったが, 2枚のうち「珍品 *Meotipa vesiculosa* E. Simon ヒシガタヒメグモ（ヒメグモ科）, 1938年7月10日福角山に採取」とメモ書きされている1枚（C11, 図11J）に描かれているクモはヤハズハエトリの雄であった. 植村氏の返信から同定結果を図に記すときに図の取り違えがおきたものと推察される. もう1枚（C10, 図5I）は雄で, 採集日と場所は「1939年8月25日福角山」となっており, 植村（1939）とは採集年が1年ずれている. また, 植村（1939）には報告個体の性別が記述されていないが記述からは雌であったと判断されるので, これも植村が報告したものと別個体である. 図譜中に「*Oxyptila* sp. エビスグモ 9月2日福角山林中にて捕る」と表示されているが, 本種の雌と同定できる図が1枚あった（E40）. それが図3Aである. 残念ながら採集年が表示されていないが, 日付が9月なのでこれも植村（1939）で報告された雌とは別個体のようである. したがって, 高橋氏は少なくとも本種を3個体（2♀1♂）採集したと考えられる. 残念ながら, 愛媛県ではこれ以後に採集記録がない（鶴崎ら, 2011）.

3. ナカムラハエトリグモ（ハエトリグモ科）（図3B / F28）

和名も学名の *Rakuhoa nakamurai* Kishida (nom. nud.) も, 新潟県在住のクモ研究者であった中村正雄氏に因むと思われるこのクモは, 湯原（1931）にも掲載されているが, 岸田が名称を与えたが原記載が公表されなかった無効学名である. 新海・谷川（2004）はこの名称を不明種として

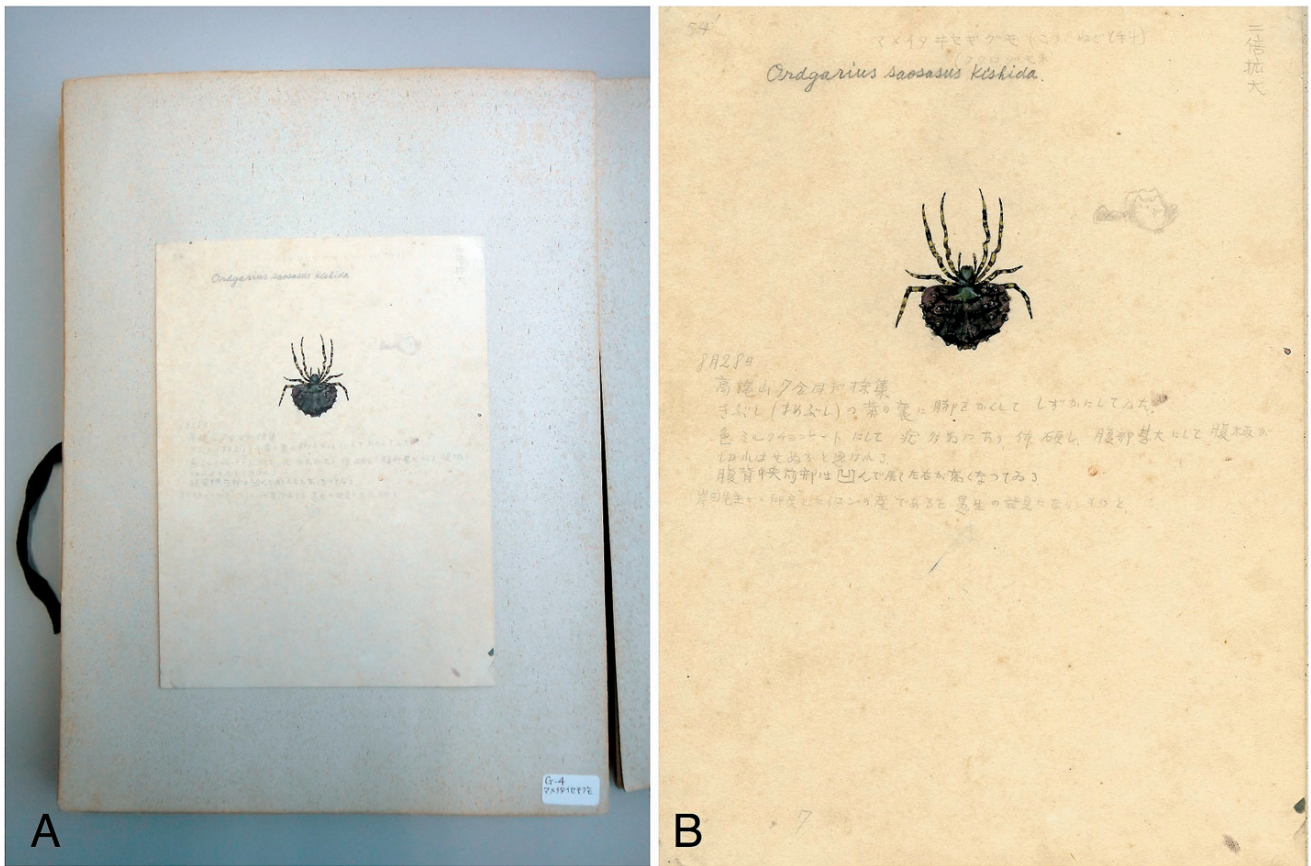


図2. 図譜の図の1例: 日本国内で最初に見つかったマメイタイセキグモ. A. 各図はA5判のケント紙に鉛筆で描かれ、さらに植物標本台紙に貼られている. 彩色は水彩絵の具で非常に細い筆で施されている. B. 左のA5判ケント紙部分の拡大.
 Fig. 2. An example of figure plates that depicts *Ordgarius hobsoni* (Araneidae). A: Each figure depicted with lead pencil and colored with watercolors on a Kent paper of A5 size is mounted on mat board of 31.3 cm long, 23 cm wide. B: Close-up of the A5 Kent paper.

いるが、八木沼 (1975) は湯原 (1931) の線画からこれが今日のデーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* (Karsch, 1879) に相当と判断している. 高橋氏によるこの彩色図 (F28) はデーニッツハエトリの特徴をよくとらえており、ナカムラハエトリグモがやはりデーニッツハエトリに相当していたことをよく裏づけている.

中村氏の名前を冠したクモには他にナカムラオニグモ *Larinioides cornutus* (Clerck 1757), ナカムラドクグモ [現在イソコモリグモ *Lycosa ishikariana* (S. Saito 1934)] がある. 属名 (無効) は楽翁 (中村氏は楽之堂と自称した) の意味だったと推測される.

4. オハグロシボグモ (シボグモ科) (図3C / B01)

この和名は、八木沼 (1988) が紹介した岸田氏の未発表遺稿原稿から転載された図 (京都府産の標本に基づく) にみられる. 高橋図譜のこの1枚には「オハグロシボグモ *Phauloctenus flavidus* Kishida, 8月23日福角山林にて捕る. 腹部に特に白黄色の毛を多生す. 背面には之の点列を見る. 大顎紫黒色にして多少前出す. 剛毛密生す」と記されている. 「*Phauloctenus*」という属名は Platnick (2011) にもそれ以前のクモの種名カタログにも出てお

らず、岸田はこれを新属と考えてこの名称を考えたのではないかと思われる. 「*phaulos* (「小さい, ささいな」という意味のギリシャ語: Brown, 1956) + 「*Ctenus* (ミナミシボグモ属)」の意味と推察されるが、「2倍拡大」という倍率から算出すると、体長は約11 mmで、普通種のシボグモ *Anahita fauna* Karsch, 1879と大差ない. 種小名の「*flavidus*」は「黄色がかった」という意味で、高橋の記述と整合している. 残念ながら、本種が現在のどの種に相当するのか、この図と記載では推測できなかった.

5. タカハシツヤグモ (図3D / A02)

この図 (A02) は雌で、「*Micariya* (sic!) *takahashi* (sic!) Kishida タカハシツヤグモ. 8月24日, 宮山の常緑樹の下にて採取. 逃げる事早し. 体全体黄銅鉞の如き光沢を有す. 光線により種々に変化する. 第1脚を前方に挙げる事多し. 住 (?) 地3a-4a位にのみ住む. 5倍位に拡大すると頭胸部の金色は刺繍にてなせる如し」という記述がある (住 (?) 地3a-4aの意味は不明). この名称は、高橋 (1939) にも「*Micaria takahashi* (sic!) Kishida 未発表 タカハシツヤグモ」として出ている (ただし、種小名は正しくは *takahashii*). 記載論文が結局発表されなかったことによ

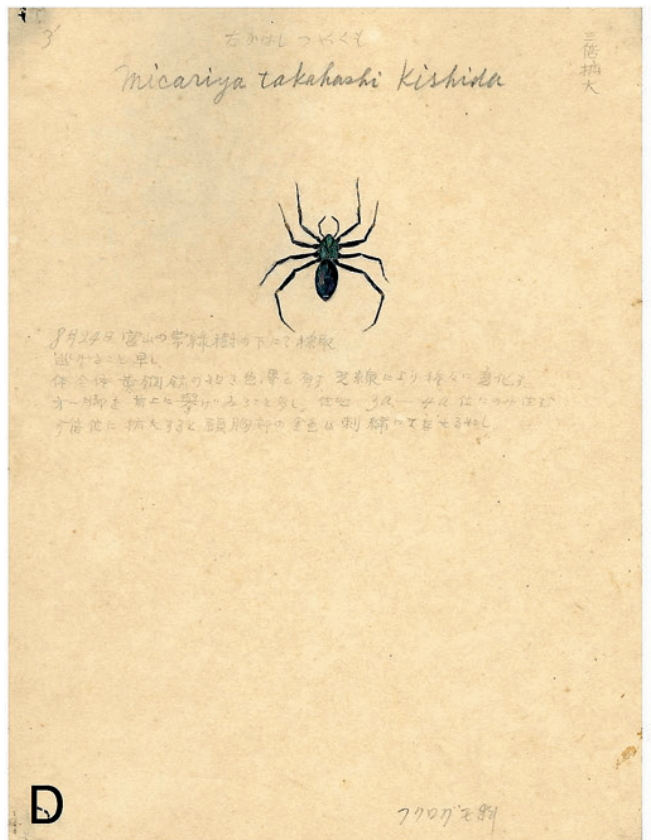
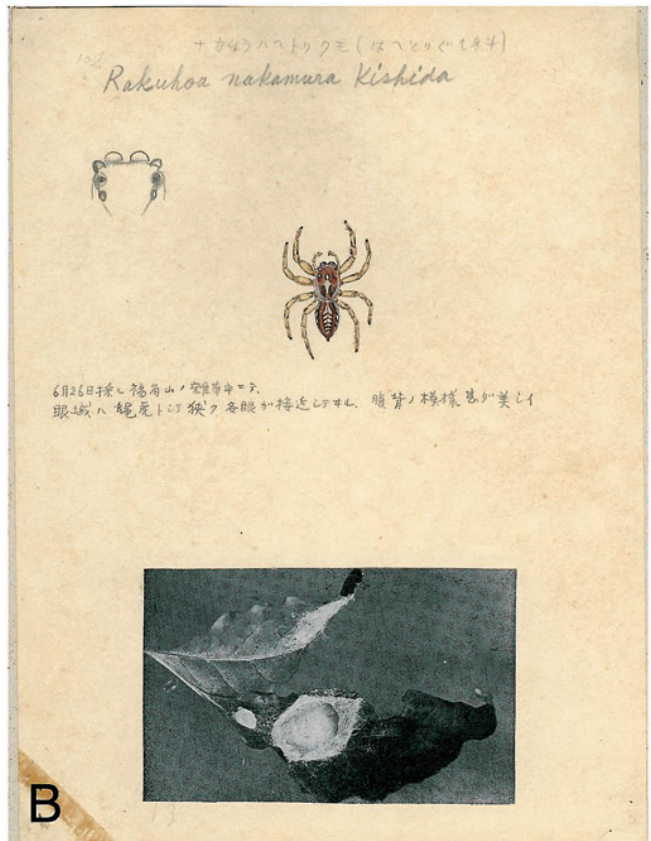
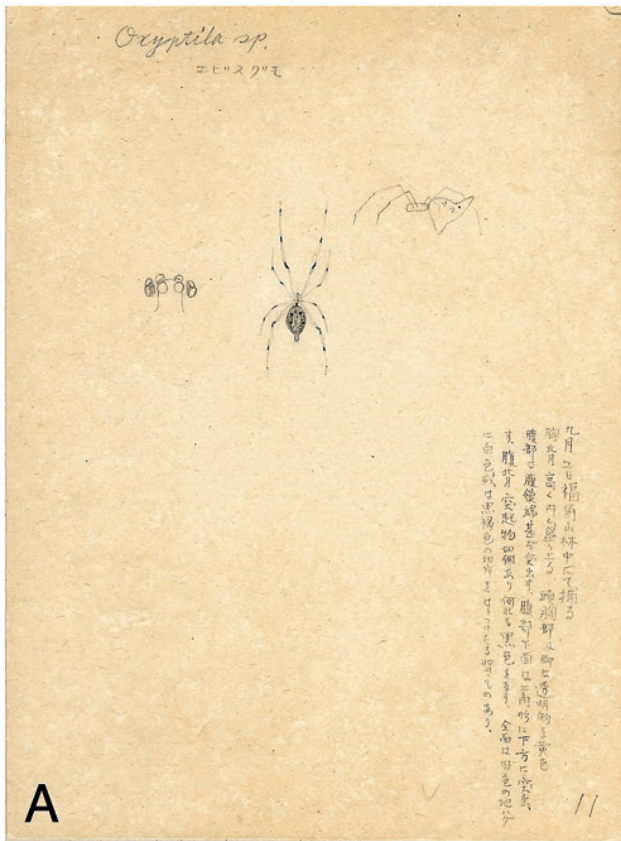


図3. 重要種のいくつか。A. ヒシガタヒメグモ。B. “ナカムラハエトリグモ *Rakuhoa nakamura* Kishida” (nom. nud.) (現在はデーニッツハエトリ)。C. “オハグロシボグモ *Phauloctenus flavidus* Kishida” (nom. nud.) (おそらく現在のヤバネウラシマグモ)。D. “タカハシツヤグモ *Micaria takahashii* Kishida” (nom. nud.)

Fig. 3. Some interesting spiders. A: *Meotipa vesiculosa* (Simon 1894) (Theridiidae). B: *Plexippoides doenitzii* (Karsch 1879) (Salticidae) drawn under the name of “*Rakuhoa nakamura* Kishida” (nom. nud.). C: A spider whose identity uncertain depicted under the name of “*Phauloctenus flavidus* Kishida” (nom. nud.). D: “*Micaria takahashii* Kishida” (nom. nud.), which probably corresponds to *Phrurolithus pennatus* Yaginuma 1969.

る無効学名である。図3D (図9Mも参照) と体に光沢があるという記述から、*Micaria* (ツヤグモ) 属 (ワシグモ科) がヤバネウラシマグモに相当すると考えられるが、この仲間のクモの分類の専門家である加村隆英氏から「ウラシマグモ類の第1・2脚の脛節・蹠節の腹面にみられる多くの刺はふつう背面からは見えないが、たまたま立ち上がった刺が見えることもある。A02図のクモの右第1脚の脛節に描かれているように見える1本の刺がそれだとすると *Micaria* (ツヤグモ) 属よりもヤバネウラシマグモの可能性が高い」とのご教示をいただいた。ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus* Yaginuma, 1969 (ネコグモ科) は、現在では北海道から九州まで広範囲で生息が確認されている比較的普通な種で (新海ら, 2010), 松山市内でもその後、中島や北条鹿島で生息が確認されているので (鶴崎ら, 2011参照), 高橋が採集したクモが本種であったと考えても無理がない。よって、本種タカハシツヤグモは現在のヤバネウラシマグモと同種であったと判断したい。

高橋図譜クモ目録 (分類順)

クモの種までの正確な同定にはしばしば生殖器 (雌では腹部下面にみえる外雌器, 雄では触肢) の形態の確認が必要である。しかし、残念ながら高橋図譜にはどの図にも生殖器の拡大図が描かれていない。1930年代には新種記載以外の論文で生殖器の図を添えることはまだ一般的でなかったようで、湯原 (1931) などにも生殖器の図は掲載されていないことを考えるとこれは責められない。生殖器の図がないために、外見のよく似た種の多い科などでは種までの正確な同定は困難であるが、今回の各図のクモの同定においては次の方針をとった: 1) 図に種名が表示されており、図がその種だと考えて矛盾がない、また、分布域を考慮しても問題がない場合には、その種名を採用する; 2) 図に種名の表示がなく、かつ、複数の候補種がある場合には、その候補の中から高橋 (1939) のリストに掲載されている種、あるいは分布域や出現期を考慮してもっとも妥当と考えられる種に同定。また、一部の図についてはそれぞれの科の専門家に候補となる種について助言を得た (謝辞参照)。

その結果、クモ127種、ザトウムシ3種について、種までの判定をおこなった。以下に、それらを分類群順に掲載する。

【凡例】

1. 科の配列および学名・和名は原則として谷川 (2010) に、科の内部の属や種の配列は分類群順の小野 (編) (2009) にしたがった。ただし、図の配置の関係で多少順序を入れ替えている場合がある。

- 各種は、現在使用の種の学名、種の和名 (本報告の図番号 / 図譜での整理番号) [図譜での整理番号]、図から判断した雌雄の別、「原図に記されたメモ」の順で表示。原図上の鉛筆書きのメモには「漢字+ひらがな書き」と「漢字+カタカナ書き」が混じっているが、ここでは「漢字+ひらがな書き」に統一した。また、内容に関わりのない誤記は適宜修正し、また漢字は現代語、送りかなも今日使用されている用法に合わせている。ただし、説明文には「採る」に対して、「採る」、「捕る」、「取る」の3種の表記がみられたが、これらの違いは図を描いた時期の推定に関わる可能性があるため、あえて統一せず、原文のままとした。図譜に元号および漢数字で示された採集日付はすべて、西暦とアラビア数字に直して表記した。
- 種名小見出しの右端の「(高橋, 1939)」は、高橋 (1939) のリストに掲載されていることを示す。
- 高橋 (1939) に種名が掲載されているが、図譜に該当する図がなかった種についても参考までにリストに加えた。ただし、連番はふらず、「・」を先頭に表示している。
- 各図のうしろの「」内は、図の余白に記された種名や説明文を引用。「sic!」はつづりや表記が原文のままであることを示す。説明文は採集地と採集日付、ならびに生態に関する記述にとどめ、形態の記載文については原則として省略した。
- 図譜に頻出する地名のうち、「宮山」は松山市福角町、正八幡神社のある丘陵をさす。「宅山」はおそらく福角町の高橋氏自宅の山林。「福角山」はおそらく福角から吉藤にかけての山地をさす (高橋泰明氏からのご教示による)。伊予市双海町牛ノ峰 (標高 895.5 m: 当時は伊予郡双海町) には複数の表記が見られたが、あえて統一せず原文のままとした。

ARANEAE クモ目 (真正クモ目)

Mygalomorphae 原蛛下目 (トタテグモ下目)

Atypidae ジグモ科

- Atypus karschi* Dönitz, 1887 ジグモ (図4A / D01) (高橋, 1939)
[D01] ♀ (+眼域, 住居写真) 「(採集データ未記入)」
【備考】触肢は輪郭が描かれているが彩色されていない。

Araneomorphae フツウクモ亜目

Loxoscellidae イトグモ科

- Loxosceles rufescens* (Dufour, 1820) イトグモ (図4B / D12) (高橋, 1939)
[D12] ♀ (+頭胸部前方) 「イトグモ (ヤマシログモ科),

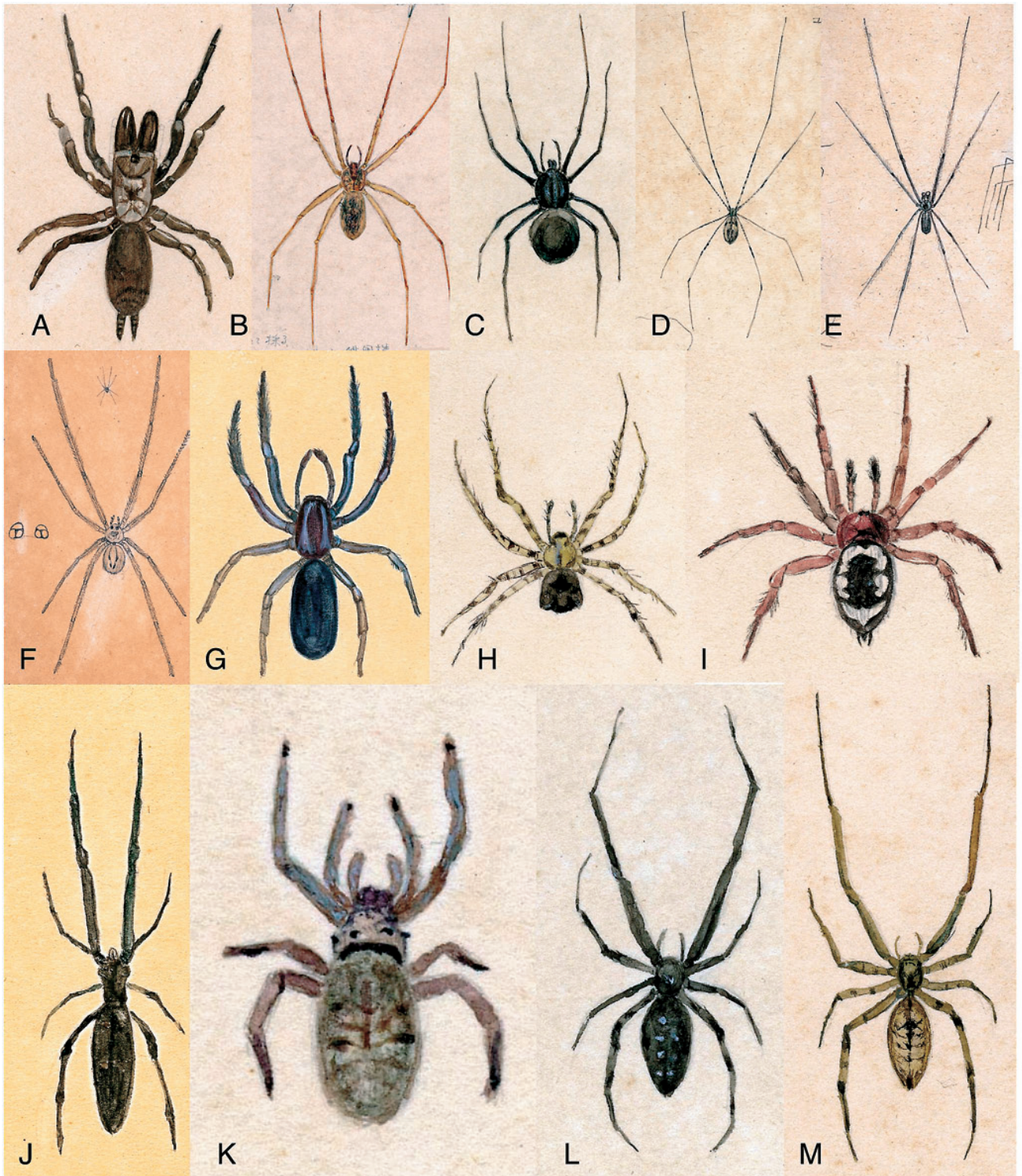


図4. 高橋図譜に掲載のクモの図. A: ジグモ (D01) (ジグモ科). B: イトグモ (D12) (イトグモ科). C: ヤマシログモ (G37) (ヤマシログモ科). D: ユウレイグモ (C14). E: イエユウレイグモ (C13). F: シモングモ (G39) (D-F: ユウレイグモ科). G: ミヤグモ (D11) (ミヤグモ科). H: センショウグモ (F44) (センショウグモ科). I: ヒラタグモ (F47) (チリグモ科). J: マネキグモ (D13). K: オウギグモ (E41). L: ヤマウズグモ (G20). M: カタハリウズグモ (D15) (J-M: ウズグモ科). 種名のあとの括弧内は高橋図譜での図の整理番号.

Fig. 4. A: *Atypus karschi* (D01) (Atypidae). B: *Loxosceles rufescens* (D12) (Loxoscellidae). C: *Dictis striatipes* (G37) (Scytodidae). D: *Pholcus zichyi* (C14) (Pholcidae). E: *Pholcus phalangioides* (C13). F: *Spermophora senoculata* (G39) (D-F: Pholcidae). G: *Ariadna lateralis* (D11) (Segestriidae). H: *Ero japonica* (F44) (Mimetidae). I: *Uroctea compactilis* (F47) (Oecobiidae). J: *Miagrammopes orientalis* (D13). K: *Hyptiotes affinis* (E41). L: *Octonoba varians* (G20). M: *Octonoba sybotides* (D15) (J-M: Uloboridae). Codes in parentheses represent reference numbers in the illustrated catalogue.

9月2日 自宅納屋の隅にて採る」

Scytodidae ヤマシログモ科

3. *Dictis striatipes* L. Koch, 1872 ヤマシログモ (図4C / G37)

[G37] ♀ (+眼域, 側面輪郭図)「(種名未記入) 自宅, 1933年8月22日, 自宅のポール箱の隅の暗きところにいた」

[G41] ♀ (+側面の輪郭図と卵囊)「(種名未記入) 8月20日, 物置の本の中より捕る. 卵囊は頭胸部の下面に抱けり」

【備考】高橋(1939)には次種ユカタヤマシログモが掲載されているが, 本種は非掲載. ユカタヤマシログモは図譜には含まれていなかったが, 両種の色斑はかなり異なり, 本種と誤同定したものとは考えにくい. 本種は植村(1943)により北宇和郡好藤村(現在は鬼北町広見)深田で記録されているが(本報告の標本の採集者はいずれも三好保徳氏で, 採集日付は1941年8月25日), 愛媛県内からその後の記録はない.

・ *Scytodes thoracica* (Latreille, 1804) ユカタヤマシログモ (高橋, 1939)

Pholcidae ユウレイグモ科

4. *Pholcus zichyi* Kulczynski, 1901 ユウレイグモ (図4D / C14) (高橋, 1939)

[C14] ♀ (+眼域, 網に静止している状態の図)「福角山1938年6月16日」

5. *Pholcus phalangioides* (Fuesslin, 1775) イエユウレイグモ (図4E / C13) (高橋, 1939)

[C13] ♂ (+頭胸部拡大, 側面輪郭, 触肢側面図, 第1脚先端拡大, 鋏角)「久松校便所6月20日」

6. *Spermophora senoculata* (Dugès, 1836) シモングモ (図4F / G39) (高橋, 1939)

[G39] ♀ (+眼域, 実物大図)「1938年8月堀江村自宅」

Segestriidae エンマグモ科

7. *Ariadna lateralis* Karsch, 1881 ミヤグモ (図4G / D11) (高橋, 1939)

[D11] ♀ (+眼域)「宮山8月上旬」(高橋, 1939)

Mimetidae センショウグモ科

8. *Ero japonica* Bösenberg & Strand, 1906 センショウグモ (図4H / F44) (高橋, 1939)

[F44] ♀ (+眼域)「*Ero foliata* L. Koch センショウグモ, 産地+日付未記入」

[G40] ♀ (+側面輪郭, 実物大図)「(種名未記入) 福角山1938年6月16日」

【備考】高橋(1939)には本科に *Ero foliata* K. Koch センショウグモと *Ero japonica* Bösenberg & Strand ツノセンショウグモの2種が掲載されているが, 前者(和名はコノハセンショウグモ)の学名は現在ヒメグモ科の *Chyssofoliata* (L. Koch, 1878) ホシミドリヒメグモとなっている(谷川, 2010). 現在の学名と和名の組み合わせは上のおりで, 両図とも本種と同定できた. G40図には, 形態的特徴のほか, 「コグサグモ (sic!) の棚を除きし様の巣にて, 松毛虫, 松の葉等をかがり, 一見本虫がどこにいるか見つけ難し. 巣には棍棒の下方のふくれたるがごとき卵囊を吊るしあり. 本虫は常に全脚を縮めて塵芥の如く擬す」との書き込みがある. 本種は今日ではヒメグモ科やサラグモ科などのクモの網に侵入し, その網の持主のクモを捕食する種であることが知られており, この記述の網と卵囊もおそらくおそわれた他種のクモのものであったと考えられる.

Oecobiidae チリグモ科

9. *Uroctea compactilis* L. Koch, 1878 ヒラタグモ (図4I / F47) (高橋, 1939)

[F47] ♀ (+頭胸部拡大)「8月15日, 自宅庭の壁にて捕る」

Uloboridae ウズグモ科

10. *Miagrammopes orientalis* Bösenberg & Strand, 1906 マネキグモ (図4J / D13) (高橋, 1939)

[D13] ♀ (+側面輪郭)「(採集データ未記入)」

11. *Hyptiotes affinis* Bösenberg & Strand, 1906 オウギグモ (図4K / E41) (高橋, 1939)

[E41] ♀ (+眼域と鋏角)「(日付未記入) 吉藤氏神にて捕る」

[E42] 網のモノクロ写真「(種名, データ未記入)」

【備考】本種は独特の三角形の網をつくるので, 網のみで同定できる.

12. *Octonoba varians* (Bösenberg & Strand, 1906) ヤマウズグモ (=ウズグモ) (図4L / G20) (高橋, 1939)

[D14] ♀ (+実物大図)「*Uloborus* sp. ウズグモの1種. 1938年8月2日温泉郡堀江村福角自宅納屋にて捕る」

[G20] ♀ (+眼域) 「(種名未記入) 面河7月26日」

13. *Octonoba sybotides* (Bösenberg & Strand, 1906) カタハリウズグモ (図4M / D15) (高橋, 1939)

[D15] ♀ (+眼域) 「ウズグモ (ウズグモ科), 8月24日 宮山にて採取」

【備考】 上記ウズグモ属の2種の和名は高橋 (1939) では, それぞれヒカゲグモ, カタハリヒカゲグモで掲載されているが, 原図には「ウズグモ」と表記されている。

Theridiidae ヒメグモ科

14. *Enoplognatha abrupta* (Karsch, 1878) カレハヒメグモ (図5A / C25)

[C25] ♀ (+眼域, 卵囊) 「ひかげぐも (うづぐも科) 1939年5月1日. 堀江村氏神の境内の松の皮の間に粗末な巣をつくり, 卵囊を2, 3個ひっかけてあるを捕らえる. 卵囊は球形なれどもドクグモの如きものでなく外面は糸の端々が無数に乱雑につけられてほぐれたる真綿の球の如し. 色は薄茶. これをつれる糸は大きくして強し」

15. *Steatoda cingulata* (Thorell, 1890) ハンゲツオスナキグモ (図5B / G29)

[G29] ♀ (+頭胸部拡大) 「(種名未記入) 1939年7月31日 福角山にて捕る」

16. *Episinus affinis* Bösenberg & Strand, 1906 ヒシガタグモ (図5C / E11)

[E11] ♀ (+側面輪郭) 「キララグモ *Chrysaster typicus* Kishida, 7月18日, 面河にて採取す. 樹木間にコグサグモの棚を除きし (上下のみの糸+数本) 如き糸を張って多くは上部の葉の陰にいる」

【備考】 キララグモは今日のキララシロカネグモ (アシナガグモ科) のことで (新海・谷川, 2004), 高橋 (1939) でもアシナガグモ科のところにリストされている (ただし, 学名は *Chrysaster typica* Kishida とされている: いずれも無効学名). 網についての記述と全形図より本種と同定できた。

17. *Chrosiothes sudabides* (Bösenberg & Strand, 1906) ヨツコブヒメグモ (図5D / C23) (高橋, 1939).

[C23] ♀ (+側面輪郭, 眼域, 実物大の図) 「*Theridion sudabides* Boesenberg et Strand ジュズカケグモ, 8月13日, 福角山林にて捕る」

【備考】 「ジュズカケグモ」は当時の名称。

18. *Stemmops nipponicus* Yaginuma, 1969 スネグロオチバヒメグモ (図5E / E47)

[E47] ♂ (+眼域) 「*Oedothorax* sp. アカムネグモ, 1939年5月28日, 宮山にて捕る. 落葉の上を這える」

【備考】 サラグモ科のアカムネグモの仲間とされているが, 図は容易に本種と同定できる. 愛媛県内では林床リター中にふつうに見られる。

・ *Anelosimus crassipes* (Bösenberg & Strand, 1906) アシプトヒメグモ (高橋, 1939).

【備考】 高橋 (1939) には *Enoplognatha folicola* Doenitz et Strand コノハヒメグモの名称で出ている. 学名・和名とも本種の異名。

19. *Platnickina mneon* (Bösenberg & Strand, 1906) サトヒメグモ (図5F / E32)

[E32] ♀ (+実物大図) 「*Meta* sp. 1938年8月2日 温泉郡堀江村大字福角の自宅にて採る. 薄暗き塵埃の中を徘徊せるもの」

【備考】 *Meta* はアシナガグモ科ドヨウグモ属だが, 図はサトヒメグモの特徴をよくとらえている. 本種は次種とともに, 徘徊して他種のクモの網に侵入し宿主を捕食する種として知られる (新海, 2006).

20. *Platnickina sterninotata* (Bösenberg & Strand, 1906) ムナボシヒメグモ (図5G / G42)

[G42] ♀ (+卵囊と眼域) 「(種名未記入) 1938年6月26日 福角山にて採取す. 草の根元に粗雑な網を張り卵囊をかけていた」

21. *Cryssio octomaculata* (Bösenberg & Strand, 1906) ヤホシヒメグモ (図5H / G32)

[G32] ♂ 「(種名未記入) 1939年8月6日 福角山灌木中にて捕る」

22. *Meotipa vesiculosa* (Simon, 1894) ヒシガタヒメグモ (図5I-J: 5I / C10, 5J / E40) (高橋, 1939)

[C10] ♂ (+眼域) 「*Meiotipa vesiculosa* E. Simon ヒシガタヒメグモ 1939年8月25日, 福角山にて捕る」

[E40] ♀ (+側面輪郭と眼域) 「*Oxyptila* sp. エビスグモ 9月2日, 福角山林中にて捕る」

【備考】 *Oxyptila* (= *Ozyptila*) の和名は現在オチバカニグモ属 (カニグモ科) となっている。

23. *Chryssio albipes* (S. Saito, 1935) ギボシヒメグモ (図5K / G27, 5L / D10)

[D10] 黒色型 ♀ (+眼域) 「ナリヒラグモ (未発表種) 1939年8月15日, 福角山にて採取す」

[E43] ♀ 亜成体 「*Narihira typica* Kishida ナアリヒラグモ (sic!) (亜成) 8月12日, 牛ノ峰にて採る. ジョロウグ

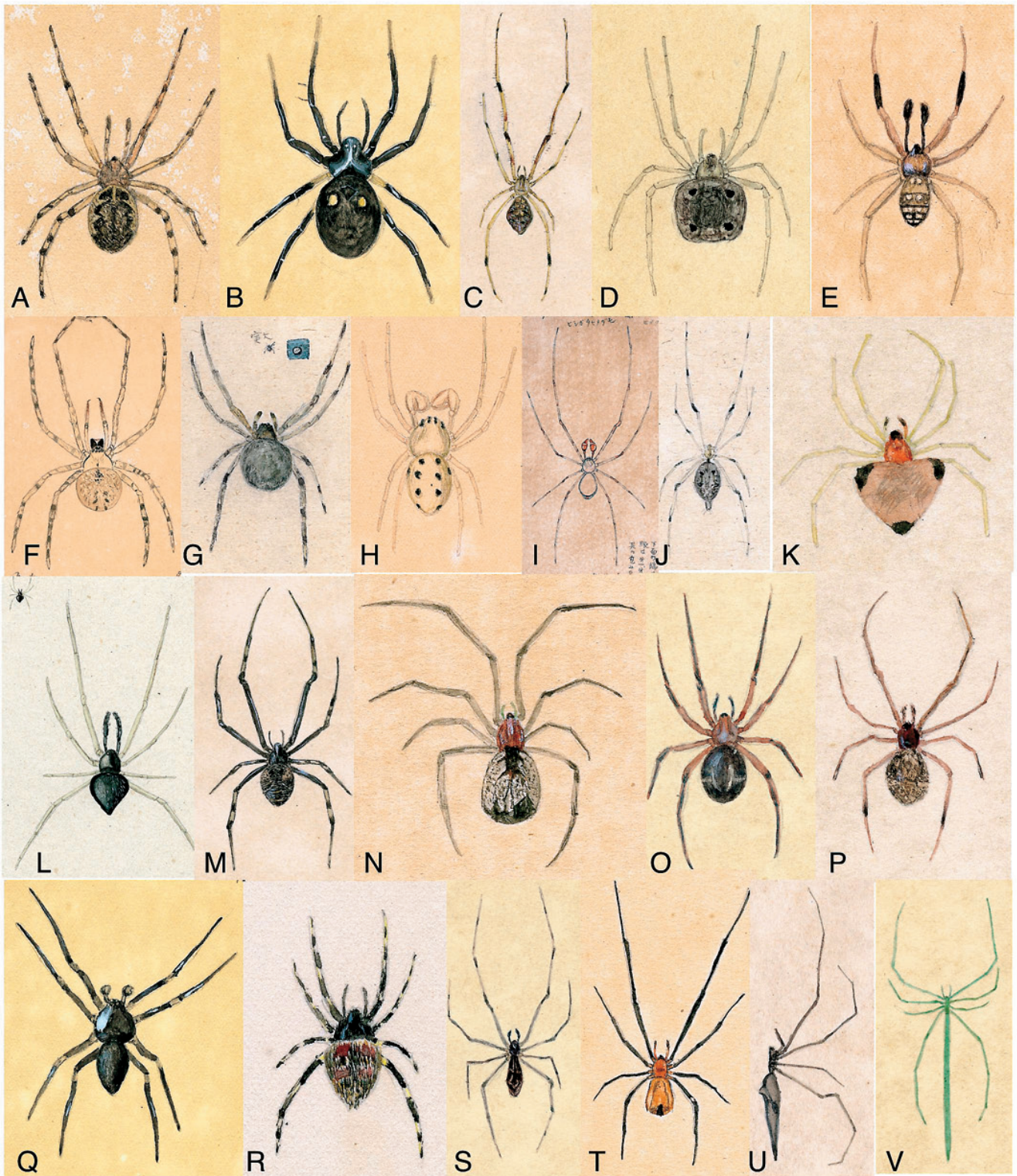


図5.ヒメグモ科. A: カレハヒメグモ (C25). B: ハンゲツオスナキグモ (G29). C: ヒシガタグモ (E11). D: ヨツコブヒメグモ (C23). E: スネグロオチバヒメグモ (E47). F: サトヒメグモ (E32). G: ムナボシヒメグモ (G42). H: ヤホシヒメグモ (G32). I-J: ヒシガタヒメグモ (I: C10. J: E40). K-L: ギボシヒメグモ (K: G27) ; ギボシヒメグモ (黒色型) (L: D10). M: オオヒメグモ (C18). N: カグヤヒメグモ (C12). O: ニホンヒメグモ (C20). P: オオツリガネヒメグモ (E44). Q: ボカシミジグモ (G31). R: ヒラタヒメグモ属? (B3). S: チリイソウロウグモ (C17). T: アカイソウロウグモ (C21). U: ヤリグモ (C16). V: オナガグモ (C24).

Fig. 5. Theridiidae. A: *Enoplognatha abrupta* (C25). B: *Steatoda cingulata* (G29). C: *Episinus affinis* (E11). D: *Chrosiothes sudabides* (C23). E: *Stemmops nipponicus* (E47). F: *Platnickina mneon* (E32). G: *Platnickina sterninotata* (G42). H: *Cryssio octomaculata* (G32). I-J: *Meotipa vesiculosa* (I: C10. J: E40). K-L: *Chryssio albipes* (K: G27), *Chryssio albipes* (Black type) (L: D10). M: *Parasteatoda tepidariorum* (C18). N: *Parasteatoda culicivora* (C12). O: *Parasteatoda japonica* (C20). P: *Parasteatoda tabulata* (E44). Q: *Yaginumena castrata* (G31). R: *Euryopis* sp. (B3). S: *Argyrodes kumadai* (C17). T: *Argyrodes miniaceus* (C21). U: *Rhomphaea sagana* (C16). V: *Ariamnes cylindrogaster* (C24).

モの巣にイソウロウしている」

[G27] ♀ (+側面輪郭) 「7月31日, 日本アルプス上高地採取」

【備考】 ナリヒラグモはかつてギボシヒメグモに対して使用された異名. *Narihira typica* Kishidaは無効学名(原記載がない). E43図の「ジョロウグモの巣に居候」という記述は, そのような習性をもつアカイソウロウグモと混同したものと考えられる. 色彩などが似るが, 図は明瞭にギボシヒメグモである.

24. *Parasteatoda tepidariorum* (C. L. Koch, 1841) オオヒメグモ (図5M / C18) (高橋, 1939)

[C18] ♀ 「*Theridion tepidariorum* C. L. Koch オオヒメグモ (採集データ未記入)」

25. *Parasteatoda culicivora* (Bösenberg & Strand, 1906) カグヤヒメグモ (図5N / C12)

[C12] ♀ (+眼域, 卵囊) 「*Theridion kompirense* Bösenberg et Strand コンピラヒメグモ♀ 7月4日, 福角山(自宅) 林にて」

【備考】 コンピラヒメグモ [現在の学名は*Parasteatoda kompirensis* (Bösenberg & Strand 1906)] と書かれているが, 腹部の斑紋パターンから, むしろ本種と判断した.

26. *Parasteatoda japonica* (Bösenberg & Strand, 1906) ニホンヒメグモ (=ヒメグモ) (図5O / C20) (高橋, 1939)

[C20] ♀ 「*Argyrodes miniaceus* (Doleschall) アカイソウロウグモ8月28日, 高縄山頂にて採取. コグサグモと同型の巣にて小なり. 巣の棚の上方の乱雑な巣の中に枯葉をつけてその中に棲む」

【備考】 全形図, 習性記述とも問題なくニホンヒメグモと判断できる.

・ *Parasteatoda angulithorax* (Bösenberg & Strand, 1906) ツリガネヒメグモ (高橋, 1939)

27. *Parasteatoda tabulata* Levi, 1980 オオツリガネヒメグモ (図5P / E44)

[E44] ♀ (+眼域, 腹部側面輪郭) 「7月15日面河溪にて採取. 岩石の陰などの雨露のしのげる所にて, 柴の枯れたの, また, 草葉の枯れたのを巻いて吊るし中に肉色をした4mmほどの球の卵囊をつけ, そしてそれとともにいる」

【備考】 愛媛県新記録である. 鶴崎ら (2011) も参照.

28. *Yaginumena castrata* (Bösenberg & Strand, 1906) ボカシミジグモ (図5Q / G31)

[G31] ♂ (+眼域) 「(種名表示なし) 1939年8月6日福

角山にて捕る」

□ *Euryopis* sp. ヒラタヒメグモ属の1種, または *Emertonella* sp. シロカネヒラタヒメグモ属の1種. (図5R / B3)

[B3] ♀ (+側面輪郭と眼域拡大) 「1939年7月9日伊予郡丑ノ峰にて捕る」

【備考】 吉田哉氏より上記2属が候補とご教示をいただいた. 両属のクモとして愛媛県内からは *Euryopis nigra* Yoshida, 2000 クロヒラタヒメグモが知られている. 四国中央市新宮村新宮ダム川淵がタイプ産地.

・ *Argyrodes bonadea* (Karsch, 1881) シロカネイソウロウグモ (高橋, 1939)

29. *Argyrodes kumadai* Chida & Tanikawa, 1999 チリイソウロウグモ (図5S / C17) (高橋, 1939)

[C17] ♀ 「*Argyrodes fiscifrons* (sic!) O. P. Cambridge イソウロウグモ, セイロンイソウロウグモ 8月24日宅山にて採取. コグサグモ (sic!) の巣にいるを捕る」

【備考】 セイロンイソウロウグモは本種の異名. 高橋 (1939) には *Argyrodes fissifrons* (O. P. Cambridge) イソウロウグモの名称で出ている.

30. *Argyrodes miniaceus* (Doleschall, 1867) アカイソウロウグモ (図5T / C21) (高橋, 1939)

[C21] ♀ (+側面輪郭, 眼域) 「*Argyrodes miniaceus* (Doleschall) アカイソウロウグモ 8月8日, 福角山にて採る」

□ *Argyrodes* sp. イソウロウグモ属の1種.

[C19] ♀ 「*Argyrodes* sp. イソウロウグモ1種未定, 8月13日福角山林中で捕る」

31. *Rhomphaea sagana* (Dönitz & Strand, 1906) ヤリグモ (図5U / C16) (高橋, 1939)

[C16] ♀ 「トガリイソウロウグモ (コガネグモ科) 8月28日, 高縄山麓にて採取」

[G43] ♀ 「(種名未記載) 1938年8月13日, 温泉郡堀江村福角, コグサグモの巣にて捕る」

【備考】 高橋 (1939) では *Bellinda nipponica* Kishida オナガイソウロウグモの名称で出ている. この名称 (学名は無効学名) がヤリグモに相当することは八木沼 (私信) による.

32. *Ariamnes cylindrogaster* (Simon, 1888) オナガグモ (図5V / C24) (高橋, 1939)

[C24] 幼体 「オナガグモ幼, 5, 6月最も多し (採集デー

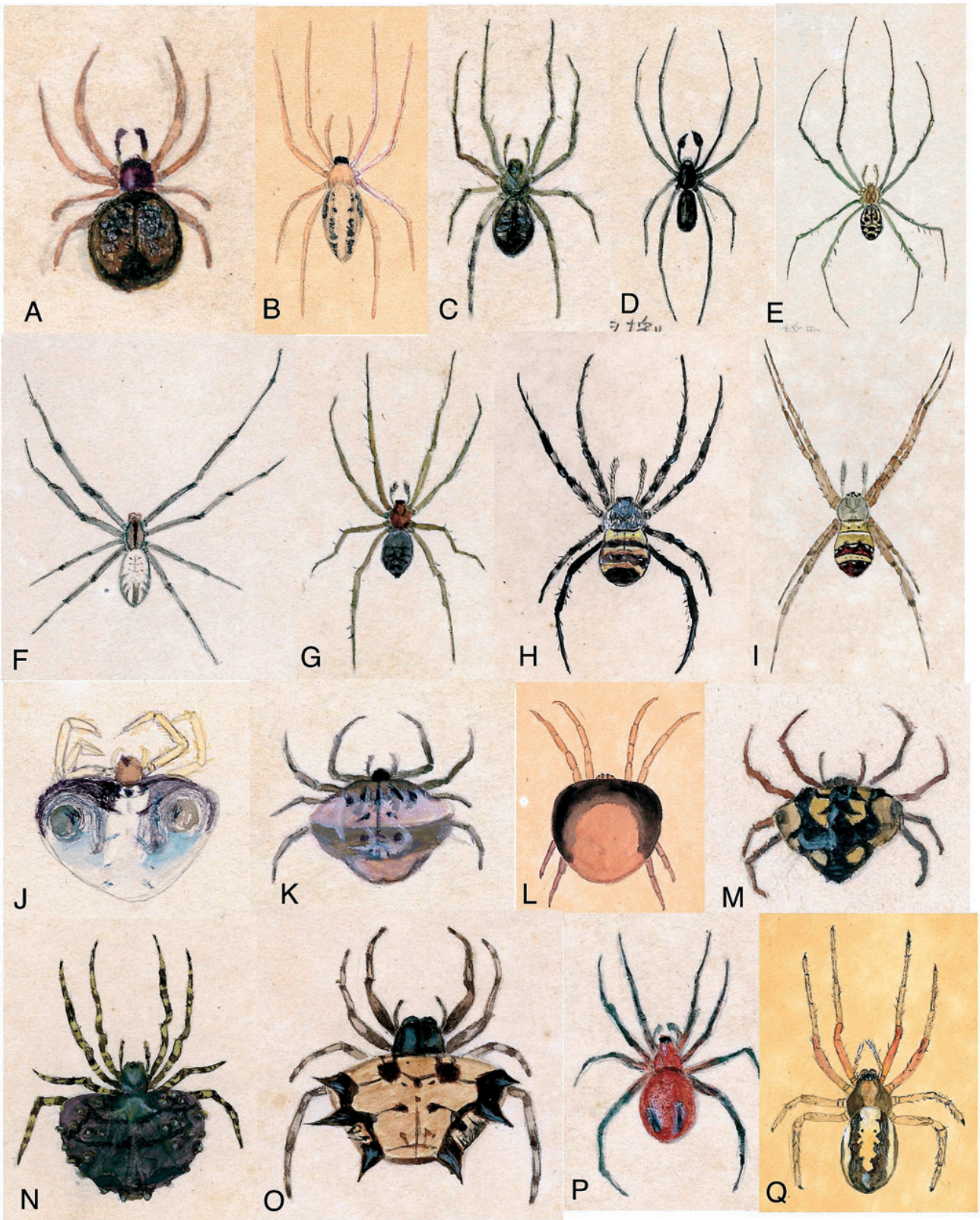


図6. A: カラカラグモ (G15) (カラカラグモ科). B-G: サラグモ科. B: ヨツボシサラグモ (G34). C: ユノハマサラグモ (C3). D: コシロブチサラグモ (C5). E: アシナガサラグモ (C4). F: フタスジサラグモ (C9). G: ヘリジロサラグモ (C1). H-Q: コガネグモ科. H: コガネグモ (E8). I: コガタコガネグモ (E10). J: トリノフンダマシ (E19). K: シロオビトリノフンダマシ (E18). L: アカイロトリノフンダマシ (ソメワケ型) (E21). M: アカイロトリノフンダマシ (E22). N: マメイタイセキグモ (G4). O: トゲグモ (E48). P: シロスジシヨウジョウグモ (C22). Q: シロスジシヨウジョウグモ (G44).

Fig.6. A: *Theridiosoma epeiroides* (G15)(Theridiosomatidae). B-G: Linyphiidae. B: *Strandella quadrimaculata* (G34). C: *Turinyphia yunohamensis* (C3). D: *Neriene marginella* (C5). E: *Neriene longipedella* (C4). F: *Neriene limbatinella* (C9). G: *Neriene oidedicata* (C1). H-Q: Araneidae. H: *Argiope amoena* (E8). I: *Argiope minuta* (E10). J: *Cyrtarachne bufo* (E19). K: *Cyrtarachne nagasakiensis* (E18). L: *Cyrtarachne yunoharuensis* ("Somewake" form)(E21). M: *Cyrtarachne yunoharuensis* (E22). N: *Ordgarius hobsoni* (G4). O: *Gasteracantha kuhlii* (E48). P: *Hypsosinga sanguinea* (C22). Q: *Hypsosinga sanguinea* (G44).

タ未記入)」

Theridiosomatidae カラカラグモ科

33. *Theridiosoma epeiroides* Bösenberg & Strand, 1906 カ
ラカラグモ (図6A / G15)

[G15] ♀ 「(種名未記入) 7月16日 面河にて採取. 樹木
の下の岩石の間に巣をコガネグモ型に張っていた」

Linyphiidae サラグモ科

34. *Strandella quadrimaculata* (Uyemura, 1937) ヨツボシサ
ラグモ (図6B / G34)

[G34] ♀ (+実物大図) 「1939年8月6日福角山にて捕る」

35. *Turinyphia yunohamensis* (Bösenberg & Strand, 1906) ユ
ノハマサラグモ (図6C / C03) (高橋, 1939)

[C03] ♀ (+眼域) 「ユノハマサラグモ (コガネグモ科)
8月27日, 高縄山頂にて採取」

・ *Aprifrontalia mascula* (Karsch, 1879) コサラグモ (高橋,
1939)

36. *Nerienne marginella* (Oi, 1960) コシロブチサラグモ (図
6D / C05)

[C05] ♂ (+眼域, 側面輪郭図) 「*Linyphia marginata* (L.
Koch) サラグモ ♂, 8月8日, 福角山にて徘徊するを採る」

37. *Nerienne longipedella* (Bösenberg & Strand, 1906) アシナ
ガサラグモ (図6E / C04)

[C04] ♀ (+眼域) 「サラグモ (コガネグモ科) 8月18日,
堀江村山腹にて採取」

[C07] 網の写真 「(データ記載なし)」

【備考】 [C07] の網は皿を伏せたようなドーム型の網
とハンモック型の網の複合である。

38. *Nerienne limbatinella* (Bösenberg & Strand, 1906) フタス
ジサラグモ (図6F / C09)

[C09] ♀ (+腹部腹面, 前方から見た頭部) 「*Micromata*
muscular ? コサラグモ (コガネグモ科), 1931年11月, 宅
山の乾燥地の樹幹に捕す」

39. *Nerienne oidedicata* (Helsdingen, 1969) ヘリジロサラグ
モ (図6G / C01) (高橋, 1939)

[C01] ♀ (+眼域) 「*Linyphia albolimbata* Karsch ヘリジ
ロサラグモ, 8月27日 高縄山頂にて捕る」

[C02] ♂ (+側面図, 前方からみ見た頭部, 腹部背面の
斑紋) 「ヘリジロサラグモ 新称, 高縄山にて10月下旬採

取」

・ *Nerienne radiata* (Walckenaer, 1842) シロブチサラグモ (高
橋, 1939)

□ 属・種まで決定できない図

[C06] ♀ 「サラグモ (コガネグモ科) 8月27日 高縄山」

[C08] ♀ (+眼域) 「サラグモ 幼 (コガネグモ科), 8月
27日 高縄山にて捕る」

[E38] ♂ (+眼域) 「アシナガグモ? (コガネグモ科),
8月24日 宅山の灌木の茂れる中にて取る. 網は二重構造
(コグサグモがごときはりかたなれど水平にして上部に
は無暗に糸をつけず. 3cmくらいはなれた下に同型同大
の網をはり) にして, 彼は上部の下面にて上方を向いて
住む. 走るさまはコグサグモと同様なり」 【備考】 網の記
述はアシナガサラグモを思わせるが, 図はアシナガサラ
グモの♂には見えない.

[E45] ♀ (+眼域) 「(種名記載なし) 8月28日 高縄山
麓にて採集. 樹の葉間に小さき巣をかけていた」 【備考】
サラグモ科と思われるが種名不明.

[G16] ♀ (+眼域) 「(種名記載なし) 6月23日 高縄山
にて採る」 【備考】 コウシサラグモかその近縁種 (*Nerienne*
属) と思われるが決定できない.

Araneidae コガネグモ科

40. *Argiope amoena* L. Koch 1878 コガネグモ (図6H / E08)
(高橋, 1939)

[E07] ♂ 「*Argiope amoena* (L. Koch) コガネグモ ♂ 8
月13日 福角山林中にて捕る」

[E08] ♀ 「*Argiope amoena* (L. Koch) コガネグモ ♀
採集データ未記入」

[E33] ♂ 「*Argiope amoena* (L. Koch) コガネグモ ♂
採集データ未記入」

・ *Argiope bruennichi* (Scopoli, 1772) ナガコガネグモ (高橋,
1939)

41. *Argiope minuta* Karsch, 1879 コガタコガネグモ (図6I
/ E10) (高橋, 1939)

[E09] ♀ 「*Argiope minuta* Karsch コガタコガネグモ. 8
月24日 宅山にて採取」

[E10] ♀ 「*Argiope minuta* Karsch コガタコガネグモ. 9
月10日 宅山にて捕る」

42. *Cyrtarachne bufô* (Bösenberg & Strand, 1906) トリノフ
ンダマシ (図6J / E19) (高橋, 1939)

[E19] ♀ (+腹面図, 糸疣, 眼域, 卵囊の図) 「*Cyrtarachne*

fasciata Kishida シロオビトリノフンダマシ (採集データ未記入)

【備考】シロオビトリノフンダマシと書かれているが、図はトリノフンダマシである。

43. *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand, 1918 シロオビトリノフンダマシ (図6K/E18) (高橋, 1939)

[E18] ♀「シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne fasciata* Kishida 8月24日 温泉郡堀江村鎮守の森の笹の葉にいるを捕る。テントウムシの止まると同様に足を裏に入れてしまって、じっとしている。巣としては2, 3本の糸を他の葉に行くに便なるようにつけているのみ」

【備考】高橋 (1939) にも学名は *Cyrtarachne fasciata* Kishida で掲載されているが、無効学名と思われる。

44. *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand, 1918 アカイロトリノフンダマシ (図6L-M: 6L/E21, 6M/E22) (高橋, 1939)

[E21] ♀ (ソメワケ型) 「*Cyrtarachne* sp. トリノフンダマシ. 1938年8月25日 高縄山麓にて葉の裏面にうずくまるを捕る」

[E22] ♀ 「*Cyrtarachne nana* Kishida アカトリノフンダマシ (採集データ未記入)」

【備考】本種には腹部に3種の色彩多型が知られる。E21はソメワケ型, E22は地色が黒いとタイプである。「*Cyrtarachne nana* Kishida」は無効学名と思われる。

45. *Ordgarius hobsoni* (O. Pickard-Cambridge, 1877) マメイタイセキグモ (図6N/G04) (高橋, 1939)

[G04] ♀ 亜成体 (+側面輪郭図) 「*Ordgarius saosusus* Kishida マメイタイセキグモ. 8月28日高縄山7合目で採集。キブシ (マメブシ) の葉の裏に脚をかくしてしずかにしていた。(中略) 岸田先生が印度とセイロンの産であるを愚生の発見になりしものと」

【備考】本種については別記。

46. *Gasteracantha kuhlii* C. Koch, 1838 トゲグモ (図6O/E48) (高橋, 1939)

[E48] ♀ 「フタホシトゲグモ. 8月11日, 氏神境内の楠の下にて捕る」

【備考】高橋 (1939) では *Gasteracantha mammosa* L. Koch フタホシトゲグモで掲載。フタホシトゲグモは琉球列島から東南アジア, オーストラリア, マダガスカルにかけて分布するチブサトゲグモ *Thelacantha brevispina* (Doleschall, 1857) (学名は長く *Gasteracantha mammosa* C. L. Koch, 1844) が使われてきたが誤同定だったとされている: 谷川, 2010) の異名であるが, これが本種トゲグモをさしていたことはこの図からも明らかである。この学名

と和名は湯原 (1936) にあるトゲグモの図にも使用されており, 当時はトゲグモに対して広く使われていたとみられる。

47. *Hypsosinga sanguinea* (C. Koch, 1845) シロスジシヨウジョウグモ (図6P-Q: 6P/C22; 6Q/G44)

[C22] ♀ 「*Diplocephalus bicurvatus* Boesenberg et Strand ムナキグモ 6月下旬高縄山にて採集す」

[G44] ♀ (+眼域, 実物大図) 「(種名未記入) 1938年8月22日堀江村自宅の水田の穂にて捕る」

【備考】高橋 (1939) では *Diplocephalus bicurvatus* Boesenberg et Strand ムナキグモでコガネグモ科のところに掲載。ムナキグモは現在サラグモ科。シロスジシヨウジョウグモの色彩・斑紋には変異が多い。

48. *Cyclosa octotuberculata* Karsch, 1879 ゴミグモ (図7A/E15) (高橋, 1939)

[E15] ♀ (+眼域) 「(表示種名同じ) 8月15日採集。人家に近き草間に多し」

49. *Cyclosa omonaga* Tanikawa, 1992 シマゴミグモ (図7B/E17) (高橋, 1939)

[E17] ♀ (+側面輪郭図) 「*Cyclosa insulana*(Costa) シマゴミグモ. 8月8日宅山にて捕る」

[G35] ♀ (+側面輪郭図) 「(種名表示なし) 8月12日丑ノ峰にて捕る」

50. *Cyclosa atrata* Bösenberg & Strand, 1906 カラスゴミグモ (図7C/E13) (高橋, 1939)

[E13] ♀ 「(表示種名同じ) 8月28日 高縄山麓にて採集」

・ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg & Strand, 1906 ギンメッキゴミグモ (高橋, 1939)

51. *Cyclosa ginnaga* Yaginuma, 1959 ギンナガゴミグモ (図7D/E12)

[E12] ♀ (+眼域) 「*Cyclosa argenteo-alba* Boesenberg et Strand ギンメッキゴミグモ. 7月15日 面河にて採取」

【備考】ギンメッキゴミグモとされているが, 腹部の形態からギンナガゴミグモと判断した。ギンナガゴミグモが記載されたのは1959年で, それ以前は両者ともギンメッキゴミグモと認識されていた。ギンメッキゴミグモは松山市では普通種で, 高橋市が真のギンメッキゴミグモも見ていたことは確実である。

52. *Cyclosa sedeculata* Karsch, 1879 ヨツデゴミグモ (図7E/E16) (高橋, 1939)

[E16] ♂ (+眼域) 「ヨツイボゴミグモ. 8月高縄中腹

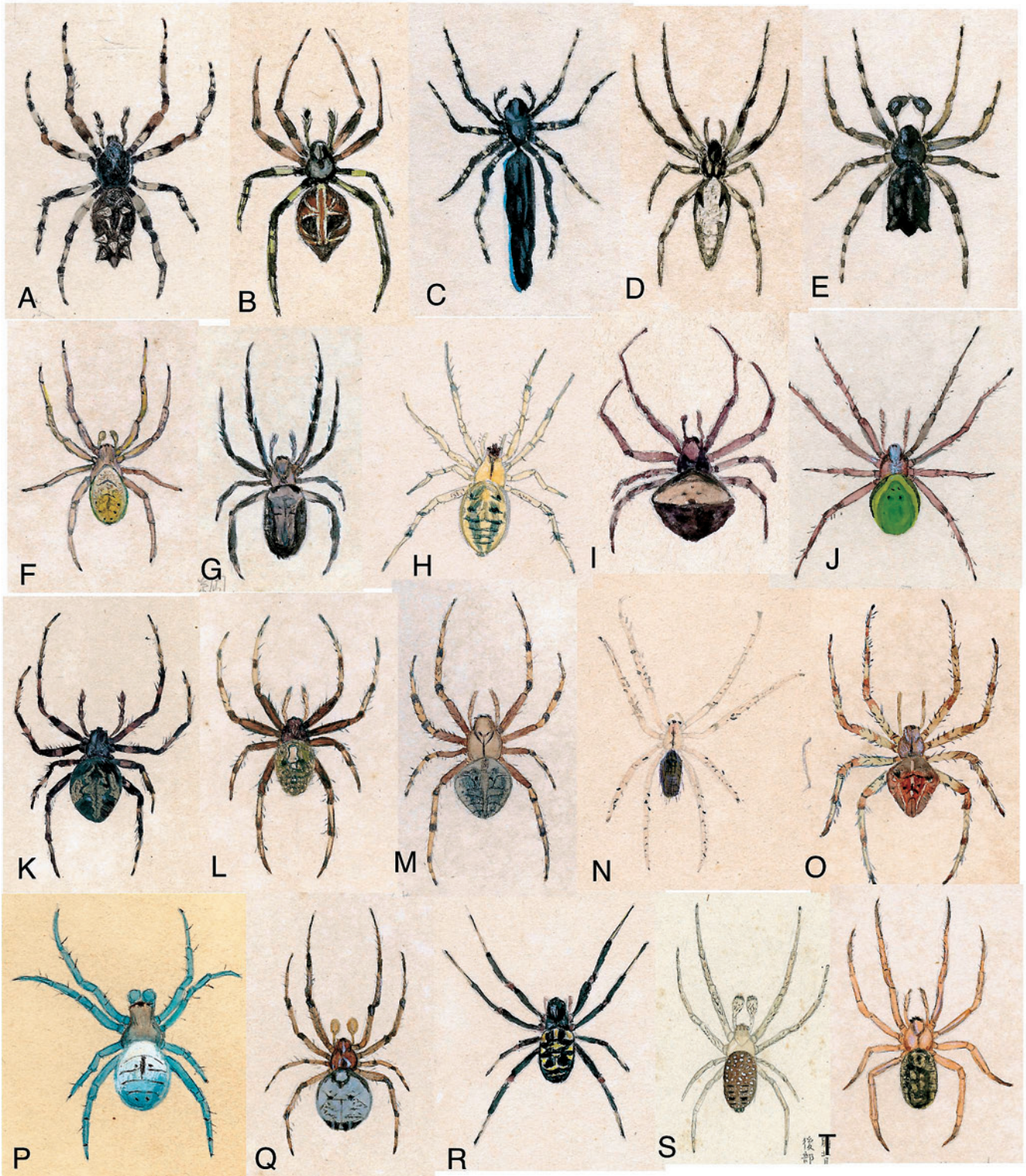


図7. コガネグモ科. A:ゴミグモ (E15). B: シマゴミグモ (E17). C: カラスゴミグモ (E13). D: ギンナガゴミグモ (E12). E: ヨツデゴミグモ (E16). F: ムツボシオニグモ (G24). G: カラフトオニグモ (G22). H: ドヨウオニグモ (E14). I: ヘリジロオニグモ (E20). J: ワキグロサツマノミダマシ (E4), K-L: ヤマシロオニグモ (K, E3; L, G26). M: コゲチャオニグモ (E5). N: コガネグモダマシ (E24). O: イシサワオニグモ (E34). P: アオオニグモ (E2). Q: ビジヨオニグモ (G21). R: ヌサオニグモ (C15). S: ゴマジロオニグモ (G30). T: ハツリグモ (C26).

Fig. 7. Araneidae. A: *Cyclosa octotuberculata* (E15). B: *Cyclosa omonaga* (E17). C: *Cyclosa atrata* (E13). D: *Cyclosa ginnaga* (E12). E: *Cyclosa sedeculata* (E16). F: *Araniella yaginumai* (G24). G: *Eriophora sachalinensis* (G22). H: *Neoscona adianta* (E14). I: *Neoscona subpullata* (E20). J: *Neoscona mellottei* (E4). K-L: *Neoscona scylla* (K, E3; L, G26). M: *Neoscona punctigera* (E5). N: *Larinia argiopiformis* (E24). O: *Araneus ishizawai* (E34). P: *Araneus pentagrammicus* (E2). Q: *Araneus mitificus* (G21). R: *Araneus ejusmodi* (C15). S: *Mangora herbeoides* (G30). T: *Acusilas coccineus* (C26).

にて採集]

【備考】高橋(1939)には*Cyclosa sedeculata* Karsch, 1879 ヨツデゴミグモで掲載。

53. *Araniella yaginumai* Tanikawa, 1995 ムツボシオニグモ (図7F / G24)

[E36] ♀ (+眼域) 「クロホシオニグモ. 8月28日, 高縄山中腹にて採集」

[G24] ♂ 「(種名未表示) 10月23日高縄山にて採る」

54. *Eriophora sachalinensis* (S. Saito, 1934) カラフトオニグモ (図7G / G22)

[G22] ♀ (+眼域, 腹部腹面斑紋) 「8月27日高縄山頂の樹間に縦網せるをとる」

55. *Neoscona adianta* (Walckenaer, 1802) ドヨウオニグモ (図7H / E14) (高橋, 1939)

[E14] ♀ (+腹面, 眼域) 「*Meta doenitzi* Boesenberg et Strand ヤマシロオニグモ (オニグモ科), 9月稲に居るを採る」

[E28] ♀ (+実物大図) 「*Meta doenitzi* Boesenberg et Strand ドヨウグモ. 1938年8月25日, 高縄山にて採る」

【備考】高橋(1939)では*Meta doenitzi* Boesenberg et Strand ドヨウグモで掲載。

・ *Neoscona nautica* (L. Koch, 1875) イエオニグモ (高橋, 1939)

56. *Neoscona subpullata* (Bösenberg & Strand, 1906) ヘリジロオニグモ (図7I / E20)

[E20] ♀ (+眼域) 「*Cyrtarachne fasciata* Kishida シロオビトリノフンダマシ. 7月17日, 高縄山麓にて採集」

57. *Neoscona melloteei* (Simon, 1895) ワキグロサツマノミダマシ. (図7J / E04) (高橋, 1939)

[E04] ♀ (+眼域) 「*Araneus scylloides* Boesenberg et Strand サツマノミダマシ (コガネグモ科). 8月14日採取. 7月よりも6月に最も多し」

【備考】高橋(1939)では*Araneus melloteei* Simon キバラオニグモで出ている。

・ *Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand, 1906) サツマノミダマシ (高橋, 1939)

58. *Neoscona scylla* (Karsch, 1879) ヤマシロオニグモ (図7K-L: 7K / E03; 7L / G26) (高橋, 1939)

[E03] ♀ (+前方から見た頭部) 「ヤマシロオニグモ (採集データ未記入)」

[G26] ♀ 「(種名, 採集データとも記入なし)」

59. *Neoscona punctigera* (Doleschall, 1857) コゲチャオニグモ (図7M / E05) (高橋, 1939)

[E05] ♀ (+眼域) 「*Araneus vatus* Thorell トスジオニグモ. 8月20日, 高縄中腹にて採集」

【備考】トスジオニグモは当時, コゲチャオニグモに使われた異名。

60. *Larinia argiopiformis* Bösenberg & Strand, 1906 コガネグモダマシ (図7N / E24) (高橋, 1939)

[E23] ♀ (+眼域, 第1歩脚先端, 側面輪郭図, 腹部斑紋の拡大図) 「(表示種名同じ) 8月11日 自宅山林の地面を這っているものを採る」

[E24] ♀ (+前方から見た頭部) 「*Larinia punctifera* Boesenberg et Strand ホシコガネグモダマシ. 10月宮山にて採取. 陽地に巣を張る」

・ *Araneus ventricosus* (L. Koch, 1878) オニグモ (高橋, 1939)

61. *Araneus ishizawai* Kishida, 1920 イシサワオニグモ (図7O / E34) (高橋, 1939)

[E34] ♀ (+眼域) 「アカオニグモ. 8月28日高縄山にて採集」

[E35] ♀ 幼体? (+前方から見た頭部) 「カクゴシオニグモ. 8月27日, 高縄山5合目付近にて採集」

【備考】高橋(1939)に記録されている*Araneus quadratus* Clerck アカオニグモ [学名は誤同定で日本産の本種に対しては現在 *Araneus pinguis* (Karsch, 1879) が用いられている: 谷川, 2010] はE34の個体に基づいていると考えられる. アカオニグモはその後, 愛媛県内 (および四国の他県) からの記録はないので, 現時点では四国では未確認と認識される必要がある (鶴崎・小林, 2011 参照)。

62. *Araneus pentagrammicus* (Karsch, 1879) アオオニグモ (図7P / E02) (高橋, 1939)

[E02] ♂ (+前方から見た頭部, 住居中の卵囊) 「(表示種名同じ) 10月宮山で採集す. 巣の一端に常に隠るべき場所作りあり, 即ち濶葉を捲きて其の中にあり」

63. *Araneus mitificus* (Simon, 1886) ビジョオニグモ (図7Q / G21)

[G21] ♂ (+眼域) 「(種名表示なし) 8月12日 伊予郡丑ノ峰にて採る」

64. *Araneus ejusmodi* (Bösenberg & Strand, 1906) ヌサオニ

グモ (図7R / C15)

[C15] ♀ (+眼域) 「ヌサグモ (コガネグモ科) ヒメグモ科. 7月高縄山麓にて採集」

【備考】高橋 (1939) ではヒメグモ科の下に *Lithyphantes dubius* Doenitz et Strand ヌサグモで掲載. この学名は *Araneus ejusmodi* の異名.

65. *Mangora herbeoides* (Bösenberg & Strand, 1906) ゴマジロオニグモ (図7S / G30)

[G18] ♀ 幼体 (+眼域) 「8月11日, 伊予郡丑ノ峰にて採取」

[G19] ♀ 幼体 (+眼域) 「8月25日, 三坂峠にて採る」

[G30] ♂ 幼体 (眼域拡大図, 実物大図あり) 「(種名表示なし) 1939年8月15日福角山にて捕る」

66. *Acusilas coccineus* Simon, 1895 ハツリグモ (図7T / C26) (高橋, 1939)

[C26] ♀ (+眼域) 「*Meta* sp. (近く発表の予定). ハツリドヨウグモ (仮称). 8月8日 高縄山瓜生谷. メザサの葉と葉の間に上下に乱雑な糸を張りて棲む」

[G38] ♀ (+眼域) 「(種名表示なし) 8月24日 宅山の常磐木 (椎) の下に採取. 雑草木の株の方に網を張り, 其の上端に葉を釣るべく横糸をこしらえこれに枯葉が捲きしをかける. 葉の下端が丁度, 巣網の中央になるようにする. 彼はこの中にかくる」

【備考】岸田氏はC26の個体を未記載または日本新産のドヨウグモ属の種と認識し, 近く発表予定と伝えたものと考えられる.

□ 属・種が決定できない図

[A20] ♀ (+眼域) 「*Pisaura strandi* Kishida ヤマジキシダグモ (キシダグモ科) 8月17日に自宅のつつじの樹間に水平の網 (コガネグモの如き) を見る. 葉の下面に隠れる」【備考】図と記述からコガネグモダマシ属の♀であることが確実である. よく似た複数種がいるため種までは決定できない.

[E01] ♀ (+眼域) 「コオニグモ (コガネグモ科), 8月27日高縄山頂の樹木の間 (高き所) に巣を張れるを採る」【備考】カラフトオニグモ風の腹部がやや長めのオニグモ類の図であるが, 種名決定できない. コオニグモという種名のクモは現在いない. コオニグモモドキ *Pronoides brunneus* Schenkel, 1936とも異なる.

[E06] ♀ 幼 (+眼域) 「キハラオニグモ (コガネグモ科) 幼, ワキグロサツマノミダマシ. 9月20日サトイモの葉の面に網を之に並行にはれるを捕る」【備考】キハラオニグモはワキグロサツマノミダマシ *Neoscona melloteei* (Simon, 1895) の異名. 図はカラオニグモ *Araneus tsurusakii* Tanikawa, 2001カラオニグモかそれに類似した

種に見える.

[G09] ♀ (+前方から見た頭部) 「(種名, データ記載なし)」【備考】オニグモの仲間だが種名を確定できない.

[G25] ♀ 幼体? (+前方から見た頭部) 「10月宮山にて採取. 山間にて採集」【備考】オニグモの仲間だが, 種名は確定できない.

Nephilidae ジョロウグモ科

・ *Nephila clavata* L. Koch, 1878 ジョロウグモ (高橋, 1939)

Tetragnathidae アシナガグモ科

67. *Metleucauge yunohamensis* (Bösenberg & Strand, 1906) メガネドヨウグモ (図8A / E31) (高橋, 1939)

[E29] ♀ (+頭部斑紋拡大図) 「*Meta yunohamensis* Boesenberg et Strand タニガワドヨウグモ. 6月26日高縄山中腹の谷川にて捕る. 甚だ大いなる網をはる」

[E30] ♀ (+眼域) 「タニガワドヨウグモ. 8月27日高縄山麓の谷川にて採取, 大きい網をはる」

[E31] ♀ (+実物大図) 「*Meta yunohamensis* Boesenberg et Strand ユノハマドヨウグモ (採集データ未記入)」

【備考】タニガワドヨウグモ, ユノハマドヨウグモとも, かつて使用された本種の異名. 高橋 (1939) では *Meta yunohamensis* Boesenberg et Strand ユノハマドヨウグモで掲載.

68. *Leucauge magnifica* Yaginuma, 1954 オオシロカネグモ (図8B / E27) (高橋, 1939)

[E27] ♀ (+眼域) 「*Leucauge blanda* (L. Koch) シロガネグモ (コガネグモ科) (採集データ未記入)」

69. *Leucauge subblanda* Bösenberg & Strand, 1906 コシロカネグモ (図8C / E25)

[E25] ♀ (+眼域) 「(種名表記同じ) 8月27日高縄山麓にて採取. シロガネグモと同様の巣なり」

70. *Leucauge subgemma* Bösenberg & Strand, 1906 キララシロカネグモ (図8D / E26)

[E26] ♀ 「(種名表示なし) 8月12日自宅山林にて捕る. シロガネグモ同様な網を張る. 腹部背は甚だ美しき黄金色の光沢ありて美なり (但しアルコール内にては直ちに黒茶色にかわる)」

【備考】本種の腹部は刺激を受けると直ちに体色変化を起こすことを最初に報じたのは植村 (1957) である. 植村 (1957) によるとキララシロカネグモ (論文ではキララグモと表記) の体色変化に最初に気づいたのは1942

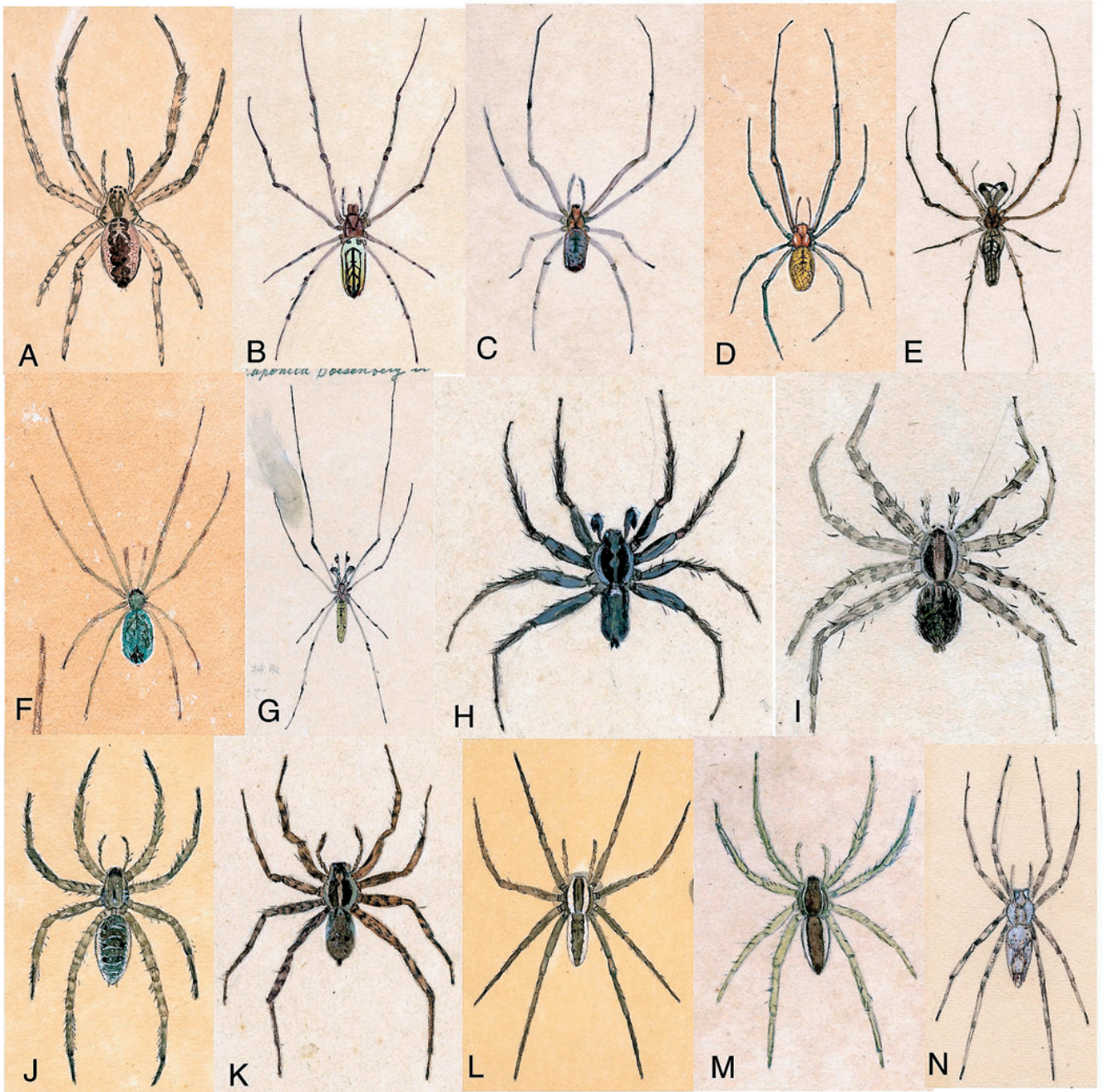


図8. アシナガグモ科, コモリグモ科, キシダグモ科. A-G: アシナガグモ科. A: メガネドヨウグモ (E31). B: オオシロカネグモ (E27). C: コシロカネグモ (E25). D: キララシロカネグモ (E26). E: アシナガグモ (E37). F: ウロコアシナガグモ (E46). G: ヤサガタアシナガグモ (E39). H-K: コモリグモ科. H: ハラクロコモリグモ (A23). I: ハリゲコモリグモ (G11). J: キクヅキコモリグモ (A14). K: ウヅキコモリグモ (A18). L-N: キシダグモ科. L: イオウイロハシリグモ (スジボケ型) (A15). M: スジプトハシリグモ (A22). N: アズマキシダグモ (B2).

Fig.8. Tetragnathidae, Lycosidae, Pisauridae. A-G: Tetragnathidae. A: *Metleucauge yunohamensis* (E31). B: *Leucauge magnifica* (E27). C: *Leucauge subblanda* (E25). D: *Leucauge subgemmea* (E26). E: *Tetragnatha praedonia* (E37). F: *Tetragnatha squamata* (E46). G: *Tetragnatha maxillosa* (E39). H-K: Lycosidae. H: *Lycosa coelestis* (A23). I: *Pardosa laura* (G11). J: *Pardosa pseudoannulata* (A14). K: *Pardosa astrigera* (A18). L-N: Pisauridae. L: *Dolomedes sulfureus* ("Sujiboke" form) (A15); M: *Dolomedes saganus* (A22). N: *Pisaura lama* (B2).

年という。E26図には日付に年が記されていないが、これらの図譜が1939年頃までに描かれたとすると、高橋氏は日本で最初にこの現象に気づいた人だったかもしれない。

71. *Tetragnatha praedonia* L. Koch, 1878 アシナガグモ (図8E/E37) (高橋, 1939)

[E37] ♀ (+眼域) 「(種名表示同じ) 8月15日採取。民家の庭に樹間等によく見る。第1脚第2脚を前方に合わせ第3脚第4脚を後方に合わせて延ばし長くなってみえる。網は美しくつくれど軟らかくて風によく翻弄される。よくオニグモの巣に交じってあることあり」

72. *Tetragnatha squamata* Karsch, 1879 ウロコアシナガグモ (図8F/E46) (高橋, 1939)

[E46] ♀ (拡大されているが無彩色の背面全形図と実物大で彩色された図の2つ。図8Fは後者) 「(種名・採集データ表示なし)」

73. *Tetragnatha maxillosa* Thorell, 1895 ヤサガタアシナガグモ (図8G/E39) (高橋, 1939)

[E39] ♂ 「*Tetragnatha japonica* Boesenberg et Strand ヤサガタアシナガグモ。8月15日 稲茶の間に採取。アシナガグモよりやせ型で腹背は金色をなす」

Lycosidae コモリグモ科

74. *Lycosa coelestis* L. Koch, 1878 ハラクロコモリグモ (図8H/A23) (高橋, 1939)

[A23] ♂ 「*Lycosa coelestis* L. Koch ハラクロドクグモ (ドクグモ科) (採集データ表示なし)」

【備考】高橋 (1939) では *Lycosa coelestis* L. Koch ハラクロドクグモおよび *Lycosa sepia* (Doenitz et Strand) セピアドクグモ (現在は前者の異名) で出ている。

75. *Pardosa laura* Karsch, 1879 ハリゲコモリグモ (図8I/G11) (高橋, 1939)

[G11] ♀ (+眼域) 「(種名・採集データとも未表示)」

76. *Pardosa pseudoannulata* (Bösenberg & Strand, 1906) キクヅキコモリグモ (図8J/A14)

[A14] ♀ (+眼域) 「*Lycosa pseudoannulata* Boesenberg et Strand キクヅキドクグモ。7月11日水田中にて採る。水の上をよく走る」

77. *Pardosa astrigera* L. Koch, 1878 ウヅキコモリグモ (図8K/A18) (高橋, 1939)

[A17] ♀ (+眼域, 卵囊) 「*Lycosa T-insignita* (Boesenberg

et Strand) ウヅキドクグモ (ドクグモ科)。8月20日, 小豆の畑にて採集。

[A18] ♀ (+眼域) 「*Lycosa T-insignita* Boesenberg et Strand ウヅキドクグモ (一名コモリグモ)。7月27日, 中島 (東中島長州) にて採る。徘徊性にして砂浜の草の中に棲む」

[A24] ♂ 「*Lycosa astrigera* ホシドクグモ (ドクグモ科)。8月20日小豆畑にて採取」

【備考】中島は現在, 松山市。字名「長州」は「長師」のことだと思われる。

・ *Pirata clercki* (Bösenberg & Strand, 1906) クラークコモリグモ (高橋, 1939)

□ 属名・種名不明の図

[A16] ♀ (+卵囊) 「ムネナガドクグモ (ドクグモ科), 8月24日宮山の常緑樹 (椎) の下の柴中にて採集」【備考】ハリゲコモリグモ属 (*Pardosa*) と思われるが, 種名は決定できない。

[G10] ♀ 「(種名・データ表示なし)」【備考】コモリグモ科と思われるが種名は不明。

Pisauridae キシダグモ科

・ *Dolomedes angustivirgatus* Kishida, 1936 スジボソハシリグモ (高橋, 1939)

78. *Dolomedes sulfureus* L. Koch, 1878 イオウイロハシリグモ (図8L/A15) (高橋, 1939)

[A15] ♀ (+卵囊保持の♀。卵囊のみの図) 「(種名表示なし) 1938年8月5日温泉郡堀江村大字福角の水田にて採る。胸部の腹面に頭胸部の長さより大なる直径を有する卵囊の球を触手にて抱きあり。水面を歩くときには水中に六分位も球が入り歩行甚だ不便利」

[A19] ♂ (スジボケ型) 「(種名・採集データ表示なし)」

[A21] ♀ 幼体 (+眼域) 「(同種名で表示・採集データなし)」

【備考】本種の腹部斑紋には多型があり, A19はスジボケ型に相当。

79. *Dolomedes saganus* Bösenberg & Strand, 1906 スジブトハシリグモ (図8M/A22) (高橋, 1939)

[A22] ♀ 幼体 「*Dolomedes pallitarsis* (Boesenberg et Strand) スジブトハシリグモ。8月採集。到たる所の山野の草木 (闊葉樹) 葉の上を徘徊せり」

80. *Pisaura lama* Bösenberg & Strand, 1906 アズマキシダグモ (図8N/B02) (高橋, 1939)

[B02] ♀ (+眼域) 「(種名表示なし) 1939年7月9日 伊予郡牛ノ峰の麓にて捕る. ツワブキの葉に乱雑な糸10数本張り, 卵嚢を触角 (著者ら注: これは触肢のこと) にてはさめり」

【備考】 高橋 (1939) では, *Pisaura strandi* Kishida ヤマジキシダモ (現在は学名・和名とも本種の異名) で掲載.

・ *Perenethis fascigera* (Bösenberg & Strand, 1906) ハヤテグモ (高橋, 1939)

【備考】 高橋 (1939), 植村 (1939) には *Tetragonophthalma fascigera* (Boesenberg et Strand) キシダグモモドキの名称で掲載. 植村 (1939) により, この記録が高橋氏により高縄山で1938年8月25日に採集の標本に基づくことがわかるが, 残念ながら図譜にはこれに該当すると思われる図は含まれていなかった.

Oxyopidae ササグモ科

81. *Oxyopes sertatus* L. Koch, 1878 ササグモ (図9A/A33) (高橋, 1939)

[A33] ♀ (+眼域) 「(種名表示同じ) 9月10日採取. 草本類の葉上に徘徊す」

Ctenidae シボグモ科

・ *Anahita fauna* Karsch, 1879 シボグモ (高橋, 1939)

【備考】 高橋 (1939) にはシボグモ科として, 本種のほかに, 「*Phauloctenus flavidus* Kishida (未発表) オハグロシボグモという種 (図3C) が掲載されている.

[B01] ♀ 「オハグロシボグモ *Phauloctenus flavidus* Kishida 8月23日福角山林にて捕る.

Agelenidae タナグモ科

82. *Agelena silvatica* Oliger, 1983 クサグモ (図9B-C: 9B/A12; 9C/A13) (高橋, 1939)

[A12] ♂ (+眼域) 「コグサグモ (タナグモ科) (採集データ記入なし)」

[A13] ♀ (+卵嚢) 「コグサグモ (タナグモ科) 8月20日宮山にて採集」

[A35] 網 (モノクロ写真2枚) 「(種名・データ記述なし)」

[G14] 幼体 「(種名未記載) 8月10日宅山の土の崖にてとる. 棚状の小さき網をはる. コグサグモの如く上部に捨てあみなし」

【備考】 コグサグモ (正しくはコクサグモ) と書かれているが, これらの図は斑紋からクサグモと判断される.

・ *Agelena opulenta* L. Koch, 1878 コクサグモ (高橋,

1939)

Dictynidae ハグモ科

83. *Dictyna foliicola* Bösenberg & Strand, 1906 ヒナハグモ (図9D/D17) (高橋, 1939)

[D16] ♂ (+眼域) 「(表示種名同じ) 1939年5月28日自宅の蜜柑山にて採取. 蜜柑の葉の上面の溝になりし所に簡単な糸をはりて其の中に棲む. 多数のものは雌雄共に居りしもの」

[D17] ♀ (+眼域, ミカン葉上の網の図) 「(表示種名同じ) 1939年5月28日自宅の蜜柑の葉に居るを捕らえる. 雌雄同棲して居りしもの」

Amaurobiidae ガケジグモ科

84. *Iwogumoa insidiosa* L. Koch, 1878 シモフリヤチグモ (図9E/A11) (高橋, 1939)

[A11] ♀ (+眼域, 糸疣) 「シモフリイオグモ (タナグモ科). 高縄山にて4月下旬採集. 木の洞空等に巣を棚状につくる」

□ 属・種不明の図

[A36] ♂ (+眼域) 「ネコグモ (タナグモ科) フクログモ科? 8月24日宅山にて採る. 巣は赤土を取りし後の崖に少しの洞をなせし雨滴を凌ぐところにコグサグモの如き巣をつくる. 自分の居るところは一方の土の割目などである」【備考】 ヤチグモの類であると考えられるが, 類似種が多く種は決定できない.

[G13] ♀ (+眼域) 「8月10日宅山の土の崖にて捕る. 棚状の小さき網をはる. コグサグモの如く捨網なし」【備考】 ヤチグモ類であるが, 類似種が多く種は決定できない.

[G23] ♀ 幼体 「8月12日伊予郡丑ノ峰にて. 杉林の中の枯葉 (落ちている) 等の間に土に面してクサグモの如き巣を作る. 但し上部に彼の如く乱雑なる糸なし. 奥の方に常に住する筒状の巣ある」【備考】 ヤチグモ類であるが, 類似種が多く種は決定できない.

Liocranidae ウエムラグモ科

85. *Itatsina praticola* (Bösenberg & Strand, 1906) イタチグモ (図9F/A03) (高橋, 1939)

[A01] ♀ (+眼域) 「*Itatsina dorsilineata* (Doenitz et Strand) イタチグモ. 8月24日宅山常緑樹の下の落葉中にて取る」

[A03] ♀ (+眼域) 「*Itatsina dorsilineata* (Doenitz et Strand) イタチグモ (フクログモ科) 8月20日小豆畑にて採取」

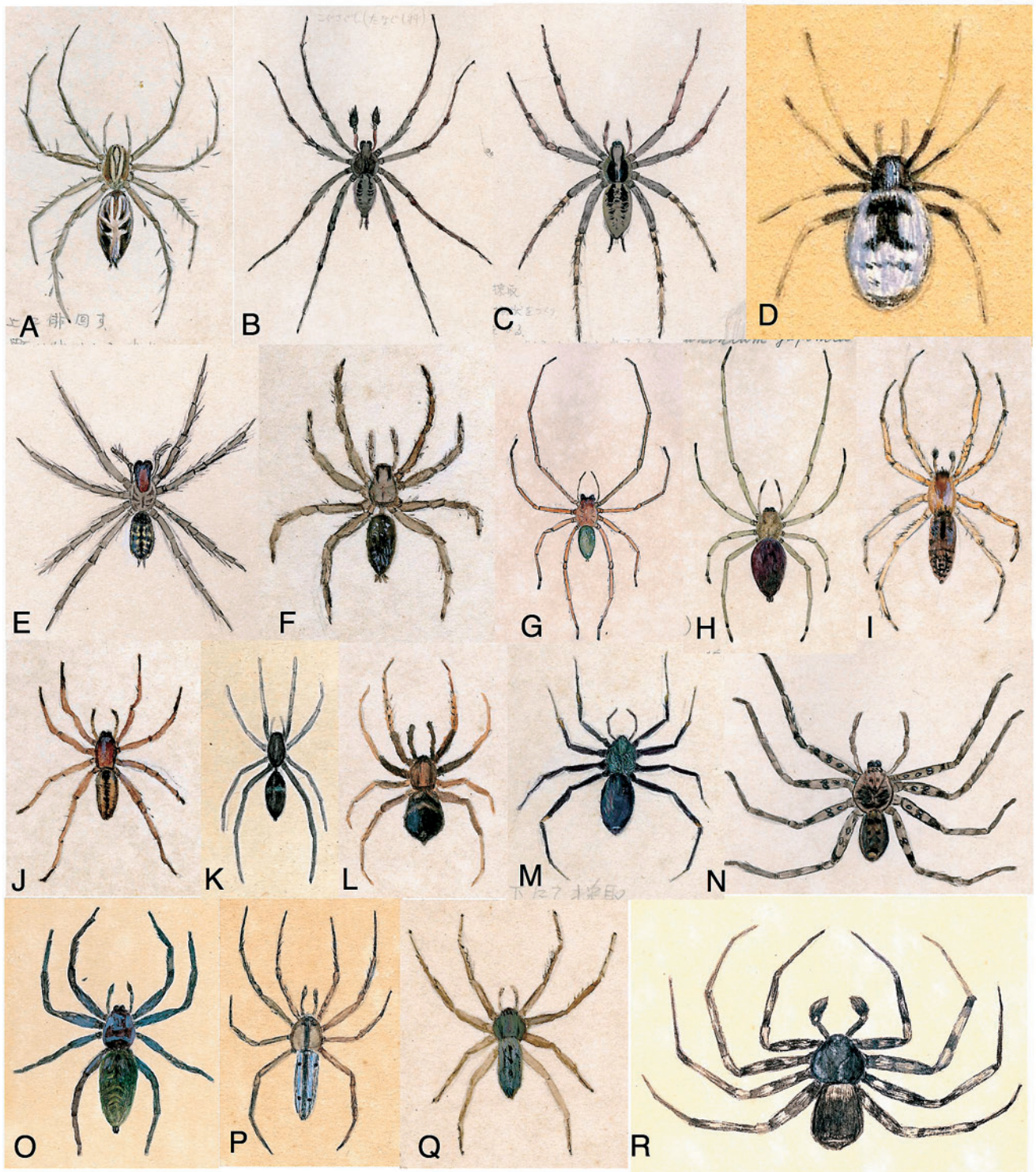


図9. ササグモ科～エビグモ科. A: ササグモ (A33) (ササグモ科). B-C: タナグモ科. B: クサグモ♂ (A12). C: クサグモ♀ (A13). D: ヒナハグモ (D17) (ハグモ科). E: シモフリヤチグモ (A11) (ガケジグモ科). F: イタチグモ (A3) (ウエムラグモ科). G-H: ツチフクログモ科. G: アシナガコマチグモ (F45). H: カバキコマチグモ (F46). I-M: フクログモ科: I: ヤマトフクログモ (G17). J: ヤハズフクログモ (A7). K: オビジガバチグモ (A8). L: イナズマウラシマグモ (B11). M: ヤバネウラシマグモ (= “タカハシツヤグモ”) (A2). N-O: アシダカグモ科. N: コアシダカグモ (B7). O: カマスグモ (B4). P-R: エビグモ科. P: シャコグモ (A28). Q: コガネエビグモ (A26). R: キハダエビグモ (D7).

Fig. 9. Oxyopidae to Philodromidae. A: Oxyopidae; *Oxyopes sertatus* (A33). B-C: Agelenidae: B: *Agelena silvatica* (A12). C: *Agelena silvatica* (A13). D: Dictynidae: D: *Dictyna foliicola* (D17). Amaurobiidae: E: *Iwogumoa insidiosa* (A11). Liocranidae: F: *Itatsina praticola* (A3). Miturgidae: G: *Cheiracanthium eutittha* (F45). H: *Cheiracanthium japonicum* (F46). I-M: Clubionidae: I: *Clubiona japonica* (G17). J: *Clubiona jucunda* (A7). K: *Castianeira shaxianensis* (A8). L: *Phrurolithus claripes* (B11). M: *Phrurolithus pennatus* (= “*Micaria takahashii* Kishida”, nom. nud.) (A2). N-O: Sparassidae: N: *Sinopoda forcipata* (B7). O: *Thecticopsis severa* (B4). P-R: Philodromidae: P: *Tibellus japonicus* (A28). Q: *Philodromus aureolus* (A26). R: *Philodromus spinitarsis* (D7).

Miturgidae ツチフクログモ科

86. *Cheiracanthium eutittha* Bösenberg & Strand, 1906 ア
シナガコマチグモ (図9G/F45)
[F45] ♀ 「(表示種名同じ. 採集データ未記入)」

87. *Cheiracanthium japonicum* Bösenberg & Strand, 1906
カバキコマチグモ (図9H/F46)
[F46] ♀ (+眼域と営巣の図) 「(表示種名同じ) 7月15
日面河入口にて採る」

・ *Cheiracanthium lascivum* Karsch, 1879 ヤマトコマチグモ
(高橋, 1939)

□ 属・種不明の図

[A04] ♀ 幼体 (+眼域) 「*Clubiona* sp. フクログモの1種.
8月24日 宮山に採取. 草木の葉を巻いていること多し」.
【備考】 コマチグモの1種 *Cheiracanthium* sp. と思われる.
[G12] ♀ (+眼域, 巣) 「9月11日宅山に採る. 女竹の葉
の端を内側に曲げて糸に白くつづり其の中に棲む」【備
考】 コマチグモの1種 *Cheiracanthium* sp. と思われる.

Clubionidae フクログモ科

88. *Clubiona japonica* L. Koch, 1878 ヤマトフクログモ
(図9I/G17) (高橋, 1939)
[G17] ♂ 「(種名未記入) 6月23日高縄山にて採集」

89. *Clubiona jucunda* (Karsch, 1879) ヤハズフクログモ (図
9J/A07) (高橋, 1939).
[A07] ♀ (+眼域) 「*Clubiona japonica* L. Koch フクロ
グモ (フクログモ科) 8月27日高縄山麓にて採取. 闊葉樹
の葉を巻きて棲む」

[A34] ♂ (+眼域) 「*Clubiona japonica* Karsch ヤハズフ
クログモ. 6月26日福角山にて採る」

・ *Clubiona japonicola* Bösenberg & Strand, 1906 ハマキフ
クログモ (高橋, 1939)

□ 種不明の図

[A09] ♀ 幼体 「*Clubiona* sp. フクログモ1種 幼, 8月
13日 福角山林にて捕る」【備考】 フクログモ属は外見で
類似した種が多く, ほとんどの種は生殖器の図がないと
種名は決定できない.

[A10] ♀ 幼体 「*Clubiona* sp. フクログモ1種. 幼, 8月12
日 自宅山林にて捕る」

Gnaphosidae ワシグモ科

・ *Drassodes nox* Dönitz & Strand, 1906 クロワシグモ (高
橋, 1939).

・ *Gnaphosa kompirensis* Bösenberg & Strand, 1906 メキリ
グモ (高橋, 1939)

【備考】 高橋 (1939) にはワシグモ科の下に, 他に
「*Oenosomum nipponicum* Kishida アカネグモ」という名
称 (学名は原記載のない無効学名) が掲載されている.
「*Zetes* (sic!) *oenosomum* Kishida アカネグモ」というワシ
グモ科の種が湯原 (1931, p.164) に掲載されており, これ
と同一種のものと思われる [湯原 (1931) にはアカネグ
モの次のページにヒタキグモ *Oenosomum* sp. という名称
のクモも掲載されている]. 高橋図譜にこの名称を記し
た図はなく, また湯原 (1931) の「アカネグモ」も図は
ワシグモ風でありながら, 屋内性で, 「上顎 (鋏角) 前縁
に5歯, 後縁に3歯」などイエタナグモ *Tegenaria domestica*
(Clerck, 1758) (タナグモ科) を思わせる説明が付されて
おり, これが現在のどのクモを指しているか不明である.

□ 属・種不明の図

[B09] ♀ 「クロナツメグモ (ワシグモ科), 8月27日,
高縄山にて採集」. 【備考】 ワシグモ科の1種.

[B12] ♀ (+眼域) 「*Drassodes* sp. ワシグモの1種7月5
日庭にある箱の底に居た」. 【備考】 ヨリメケムリグモ属
か, タイリクケムリグモ属 (加村隆英氏).

[B13] ♀ (+眼域) 「*Zelotes* sp. ワシグモ1種 (産地・日
付記入なし)」【備考】 ケムリグモ属の1種.

[G36] ♀ 幼体 (+眼域) 「(種名表示なし) 冬期, 山中の
日当たりのよき所の草の中にある大石を挙げて採取す」
【備考】 *Zelotes* ケムリグモ属.

Corinnidae ネコグモ科

90. *Castaneira shaxianensis* Gong, 1983 オビジガバチグモ
(図9K/A08) 愛媛県新記録

[A05] ♀ (+眼域) 「*Castaneira* (sic!) *niger* Kishida ジガ
バチグモ (フクログモ科). 8月20日小豆畑にて採集」

[A08] 幼体 「*Castaneira* (sic!) sp. ジガバチグモの1種.
幼, 8月23日, 福角山林にて捕る」

【備考】 本種に特徴的な腹部に青色を帯びた白色の横
帯が出ており本種と同定した. 「*Castaneira niger* Kishida
ジガバチグモ」は高橋 (1939) にもリストされているが,
無効学名 (原記載がない). 今日広く使用されている和名
と旧名との対照を網羅的に調査した新海・谷川 (2004)
では旧名「ジガバチグモ」の対応が不明とされているが,
A05図は本種に相当していたことを示唆する. なお, 本種
が残念ながら愛媛県ではその後の採集記録がないが, 愛
媛県は日本における本種の既知分布内にあり四国でも徳

島県で記録されているので、本県の新記録としてとりあげる。

□ 種不明の図

[A06] ♀ (+眼域) 「*Castaneira* sp. ジガバチグモ. 8月20日, 小豆畑にて採取」. 【備考】 細長い背甲の形状から, ジガバチグモ属 *Castaneira* の1種と思われるが種は確定できない (加村隆英氏のご教示による).

91. *Phrurolithus claripes* (Dönitz & Strand, 1906) イナズマウラシマグモ (図9L/B11) (高橋, 1939).

[B11] ♀ (+眼域) 「*Drasodes* (sic!) sp. ワシグモの1種. 6月23日高縄山頂上にて取る. 小さき赤蟻の集れる付近に徘徊せるものにして一見赤蟻に似る (落葉の中)」

92. *Phrurolithus pennatus* Yaginuma, 1967 ヤバネウラシマグモ (図9M/A2)

[A02] ♀ 「*Micariya* (sic! 正しくは *Micaria*) *takahashii* Kishida タカハシツヤグモ. (生態などの記述は前述参照)」

【備考】 高橋 (1939) には「*Micaria takahashi* (sic!) Kishida 未発表タカハシツヤグモ」として出ている. タカハシツヤグモをヤバネウラシマグモと判断した理由については前述した.

・ *Trachelas japonicus* Bösenberg & Strand, 1906 ネコグモ (高橋, 1939)

Gnaphosidae ワシグモ科

□ 属・種不明♀幼体 (本科の同定とそれらの根拠はいずれも加村隆英氏のご教示による)

[B09] ♀ (成体か幼体か不明) 「クロナツメクモ (ワシグモ科) 8月17日 高縄山にて採集」 【備考】 ワシグモ科の1種とまでしか同定できない」

[B12] ♀ (+眼域) 「*Drassodes* sp. ワシグモの1種7月5日庭にある木箱の底に居た」 【備考】 全体の色あいと後中眼が大きいことから, *Drassyllus* より *ケムリグモ* 属か *Trachyzelotes* タイリクケムリグモ属のいずれかの1種と考えられる.

[B13] ♀ ? (+眼域) 「*Zelotes* sp. ワシグモの1種 (採集データ記載なし)」 【備考】 全体の色合いと後中眼が小さいことから, *Zelotes* ケムリグモ属の1種と考えてよい.

[G36] ♀ (+眼域, 糸疣) 「(種名記載なし) 冬期山中の日当たりよき所の草の中にある大石を挙げて採取す」 【備考】 上と同様の理由により, *Zelotes* ケムリグモ属の1種と考えられる.

Sparassidae アシダカグモ科

93. *Heteropoda venatoria* (Linnaeus, 1767) アシダカグモ (高橋, 1939)

[B08] 卵嚢を保持する♀ (写真). 「(種名表示・採集データなし)」

94. *Sinopoda forcipata* (Karsch, 1881) コアシダカグモ (図9N/B07)

[B07] ♀ (+眼域) 「(種名表示なし) 9月9日宮山の雨のかからぬ土の崖下にてとる」

95. *Thelcticopis severa* (L. Koch, 1875) カマズグモ (図9O/B04) (高橋, 1939)

[B04] ♀ (+眼域, 営巣の図) 「(表示種名同じ) 6月20日宮山椎山にて採取, メダケの葉を重ねて綴り合せている中に白き糸にて巣をつくりかくれいたり」

Philodromidae エビグモ科

96. *Tibellus japonicus* Efimik, 1999 シャコグモ (図9P/A28) (高橋, 1939)

[A28] ♀ (+眼域) 「*Tibellus tenellus* (L. Koch) シャコグモ. 7月4日福角山笹の中にて採る」

・ *Tibellus oblongus* (Walkenaer, 1802) スジシャコグモ (高橋, 1939)

97. *Philodromus aureolus* (Clerck, 1758) コガネエビグモ (図9Q/A26)

[A26] ♀ 「コガネエビグモ (カニグモ科) 8月27日高縄山にて採取」

[A27] ♀ 「コガネエビグモ (カニグモ科) キイロエビグモ? 8月24日宅山にて草の葉面にて捕る」

・ *Philodromus auricomus* L. Koch, 1878 キンイロエビグモ (高橋, 1939)

98. *Philodromus spinatarsis* Simon, 1895 キハダエビグモ (図9R/D07) (高橋, 1939)

[D06] ♂ (+眼域) 「(表示種名同じ) 7月2日宮山にて捕る. 大いなる松の皮の間に潜む」

[D07] ♂ 「(表示種名同じ) 久枝運動場 1939年6月9日」

□ 種不明の図

[A30] ♀ (+眼域, 卵嚢写真) 「イナジエビグモ (カニグモ科) 12月中旬 松樹の木皮 (大) をはぎし際採取」. 【備考】 「イナジエビグモ」という和名は, 湯原 (1931) にも



図10. カニグモ科 (A-J) とハエトリグモ科 (J-R). A: ワカバグモ (A32). B: トラフカニグモ (A25). C: ヤミイロカニグモ (D2). D: ニッポンオチバカニグモ (F34). E: フノジグモ (A29). F: コハナグモ (D4). G: ハナグモ (D5). H: ガザミグモ (A31). I: アズチグモ (D3). J-K: アリグモ (J, F19; K, F18). L: ヤサアリグモ (F16). M: ネコハエトリ (F37). N: アオオビハエトリ (F40). O: イソハエトリ (F13). P: タカノハエトリ (G33). Q: マガネアサヒハエトリ (F8). R: キアシハエトリ (F4).

Fig. 10. Thomisidae (A-J) and Salticidae (J-R). A: *Oxytate striatipes* (A32). B: *Tmarus piger* (A25). C: *Xysticus croceus* (D2). D: *Ozyptila nipponica* (F34). E: *Synaema globosum* (A29). F: *Diaea subdola* (D4). G: *Ebrechtella tricuspida* (D5). H: *Pistius undulatus* (A31). I: *Thomisus labefactus* (D3). J-K: *Myrmarachne japonica* (J, F19; K, F18). L: *Myrmarachne inermichelis* (F16). M: *Carrohotus xanthogramma* (F37). N: *Siler cupreus* (F40). O: *Hakka himeshimensis* (F13). P: *Heliophanus flavimaxillis* (G33). Q: *Phintella arenicolor* (F8). R: *Phintella bifurcilinea* (F4).

新海・谷川 (2004) にも掲載されていない。エビグモ属 *Philodromus* でキハダエビグモあたりかと思われるが、種名決定困難である。

Thomisidae カニグモ科

99. *Oxytate striatipes* L. Koch, 1878 ワカバグモ (図10A / A32) (高橋, 1939)

[A32] ♀ (+眼域) 「(表示種名同じ) 8月12日, 伊予郡丑ノ峰にて採る。緑葉の上を徘徊する」

100. *Tmarus piger* (Walckenaer, 1802) トラフカニグモ (図10B / A25)

[A25] ♀ (+眼域) 「コハマキグモ (カニグモ科) 8月20日」

101. *Xysticus croceus* Fox, 1937 ヤミイロカニグモ (図10C / D02) (高橋, 1939)

[D02] ♀ (+眼域) 「*Xysticus ephippiatus* Simon ヤミイロカニグモ。8月27日高縄山に採取」

102. *Ozyptila nipponica* Ono, 1985 ニッポンオチバカニグモ (図10D / F34)

[F34] ♀ (+卵黄を保護する♀の図) 「*Sittix* (sic!) sp. 1938年7月10日福角山にて採る。雌篋の落ちて枯れたる葉の中に卵囊を付けて此の上においてこれを保護せり」

【備考】 *Sitticus* はハエトリグモ科の1属 (和名ナミハエトリグモ属)。

103. *Synaema globosum* (Fabricius, 1775) フノジグモ (図10E / A29) (高橋, 1939)

[A29] ♀ (眼域と何かの写真) 「*Synaema globosum japonica* (sic!) Karsch フノジグモ (カニグモ科) 高縄山麓にて採取。コナラの上を徘徊せるものを見出す」

【備考】 *Synaema globosum japonica* の「*japonica*」は正しくは「*japonicum*」。この亜種名は現在使われていない。

104. *Diaea subdola* O. Pickard-Cambridge, 1885 コハナグモ (図10F / D04)

[D04] ♀ (+眼域) 「コハナグモ。7月25日, 面河にて採取」

105. *Ebrechtella tricuspидata* (Fabricius, 1775) ハナグモ (図10G / D05) (高橋, 1939)

[D05] ♀ 「*Misumena tricuspидata* (Fabricius) ハナグモ。8月17日ハマゴウにて採取。5月頃, 常緑樹の花の咲ける所に多し。飛来せる小虫を食う」

106. *Pistius undulatus* Karsch, 1879 ガザミグモ (図10H / A31) (高橋, 1939)

[A31] ♀ (+眼域) 「*Pistius truncatus* (Pallas) タンバグモ。5月30日高縄山の中麓にて取る。尺取虫を食うて (頭部) いるを見る」

【備考】 高橋 (1939) でも「*Pistius truncatus* (Pallas) タンバグモ」として出ているが学名は誤同定。タンバグモはかつて使用された本種の異名。

107. *Thomisus labefactus* Karsch, 1881 アズチグモ (図10I / D03) (高橋, 1939)

[D03] ♀ 「*Thomisus albus* (Gumelin) シロアズチグモ。8月20日小豆畑にて採取」

【備考】 高橋 (1939) でも「*Thomisus albus* (Gumelin) シロアズチグモ」として出ているが学名は誤同定。シロアズチグモはアズチグモの異名。

・ *Xysticus insulicola* Bösenberg & Strand, 1906 アズマカニグモ (高橋, 1939)

Salticidae ハエトリグモ科

108. *Myrmarachne japonica* (Karsch, 1879) アリグモ (図10J-K: 10J / F19; 10K / F18) (高橋, 1939)

[F18] ♂ (+眼域図) 「(種名表示なし)」

[F19] ♀ 「*Myrmarachne japonica* (Karsch) アカアリグモ。1939年5月道後公園南堤防にて捕る」

[F20] ♀ (+眼域) 「*Myrmarachne japonica* (Karsch) アカアリグモ (ハエトリグモ科)。8月27日高縄山頂の落葉の上にて採集す」

[F24] 幼 (+非彩色の体の拡大と実物大表示) 「*Myrmarachne* sp. アリグモの1種 幼。8月23日福角山林にて捕る」

109. *Myrmarachne inermichelis* Bösenberg & Strand, 1906 ヤサアリグモ (図10L / F16) (高橋, 1939)

[F16] ♀ (+頭胸部の前方観) 「(表示学名同じ) クロアリグモ。10月宮山にて採取」

[F17] ♂ (+頭胸部拡大) 「(表示学名同じ) クロアリグモ。8月20日, 小豆畑にて採集」

[F22] ♂ (+線画の拡大図, 缺角, 尾端の拡大) 「*Myrmarachne* sp. (アリグモの1種)。6月3日温泉郡堀江村福角山林にて捕らえる」

110. *Carrohotus xanthogramma* (Latreille, 1819) ネコハエトリ (図10M / F37)

[F33] ♂ 亜成体 (+実物大図) 「*Sittix* (sic!) sp. 1939年8月15日福角山にて採る」

- [F37] ♀ 「*Sittix* (sic!) sp. (採集データ記載なし)」
 [F38] ♂ 「*Sittix* (sic!) sp. (採集データ記載なし)」
 【備考】 *Sittix*や*Sittix*は*Sitticus* (ナミハエトリグモ属)の誤記と思われる。
- ・ *Pancorius crassipes* (Karsch, 1881) アシプトハエトリ (高橋, 1939)
111. *Siler cupreus* Simon, 1888 アオオビハエトリ (図10N / F40)
 [F40] ♀ 「*Sittix* (sic!) sp. 6月26日福角山にて取る」
 [F41] ♀ (+眼域) 「クスマハエトリグモ (ハエトリグモ科). 8月20日, 小豆畑にて採集」
- ・ *Pseudicius vulpes* (Grube, 1861) イナズマハエトリ (高橋, 1939)
112. *Hakka himeshimensis* (Dönitz & Strand, 1906) イソハエトリ (図10O / F13)
 [F13] ♀ 「*Menemerus himeshimensis* Dönitz & Str. イソハエトリグモ. 1938年8月11日. 温泉郡堀江村海岸にて取る. 波止場の石崖の石を徘徊しておるもの. 安山岩の色に似る. 或いは乾燥せり水の垢ににたるため見難し」
 [F14] ♂ 「イソハエトリグモ. 1938年8月14日温泉郡堀江村海岸にて捕る. 波止場の石崖を走れるものなり」
113. *Heliophanus flavimaxillis* Bösenberg & Strand, 1906 タカノハエトリ (図10P / G33) 愛媛県新記録
 [G33] 幼体. 「*Sittix* sp. 1939年8月15日堀江海岸・和気海岸のカワラヨモギの葉に居るものを捕る」
 【備考】 同定は池田博明氏による. 腹部背面に1対の黄色の縦条が目立つのは本種の幼体の特徴 (池田氏私信). 本種は平地の河原の地表や下草の間に見られる種で (新海, 2006), 原図にある上の生息地の記述もこれと整合する. 愛媛県を含めこれまで四国からは未記録であるが, 比較的特徴のはっきりした種であるので, 愛媛県新記録として取り上げる。
114. *Phintella arenicolor* (Grube, 1861) マガネアサヒハエトリ (図10Q / F08) (高橋, 1939)
 [F08] ♀ (+眼域) 「*Jotus difficilis* Bösenberg et Strand マガネアサヒハエトリ. 1939年5月28日 宮山にてカクレミノの葉の間に居るを捕らえる」
 [F09] ♀ (+眼域) 「*Jotus difficilis* Bösenberg et Strand マガネアサヒハエトリ. 9月5日 福角山林にて捕る」
115. *Phintella bifurcilinea* (Bösenberg & Strand, 1906) キアシハエトリ (図10R / F4) (高橋, 1939)
- [F04] ♂ (+眼域) 「*Hasarius crucifer* Doenitz et Strand ジウノジハエトリ ♂. 8月20日小豆の畑にて採取」
 [F31] ♀ (+眼域) 「*Telamonia bifurcilinea* Boesenberg et Strand キヤシハエトリグモ ♀. 7月4日福角山地にて採る」
 【備考】 *Hasarius crucifer* Doenitz et Strand, ジウ (= ジェウ) ノジハエトリ, とともに本種の古い異名. *Telamonia* 属は*Phintella* 属の異名。
116. *Phintella versicolor* (C. L. Koch, 1846) メスジロハエトリ (図11A-B: 11A / F01; 11B / F12) (高橋, 1939)
 [F01] ♂ 「*Aelurillus dimorphus* Doenitz et Strand クロスジハエトリグモ. 8月17日, 自分の机上にて採る」
 [F12] ♀ (+眼域) 「*Jotus munitus* Bösenberg et Strand (メガネアサヒハエトリグモ). 1939年6月1日, 私宅の木セイの葉から下るところを捕らえた」
 [G06] ♀ 「(種名, 採集データ未記入)」
 【備考】 *Aelurillus dimorphus* とクロスジハエトリグモは, とともに本種のそれぞれ学名と和名の異名。
117. *Plexippoides annulipedis* (S. Saito, 1939) マダラスジハエトリ (図11C / F39)
 [F39] ♂ 「*Sittix* (sic!) sp. (採集データ未記入)」
118. *Plexippoides doenitzi* (Karsch, 1879) デーニッツハエトリ (図11D / F28) (高橋, 1939)
 [F10] 幼体 (+眼域) 「*Jotus munitus* Boesenberg et Strand アサヒハエトリグモ (ハエトリグモ科) 幼. 8月20日小豆を作した畑で採取」
 [F11] ♀ (+眼域) 「*Jotus munitus* Bösenberg et Strand アサヒハエトリグモ (ハエトリグモ科) (採集データ記入なし)」
 [F28] ♀ (+眼域, 巣の写真) 「*Rakuhoa nakamura* Kishida ナカムラハエトリグモ (ハエトリグモ科) 6月26日採る, 福角山の雑草中にて. 眼域は蠅虎として狭く各眼が接近している. 腹背の模様甚だ美しい」
 【備考】 *Jotus munitus* Boesenberg et Strand アサヒハエトリグモは現在メスジロハエトリのシノニムとされており, 事実, 図F12は正しくメスジロハエトリと同定されたが, F10, F11はデーニッツハエトリと考えられる. F28のナカムラハエトリグモについては別記した。
119. *Plexippus paykulli* (Audouin, 1827) チャスジハエトリ (図11E / F26) (高橋, 1939)
 [F25] ♀ (+眼域) 「(表示種名同じ. 採集データ未記入)」
 [F26] ♀ 「チャスジハエトリグモ (ハエトリグモ科). 9月上旬宮山にて捕る」
 [F27] ♀ (+眼域) 「表示種名同じ. 採集データ未記入」

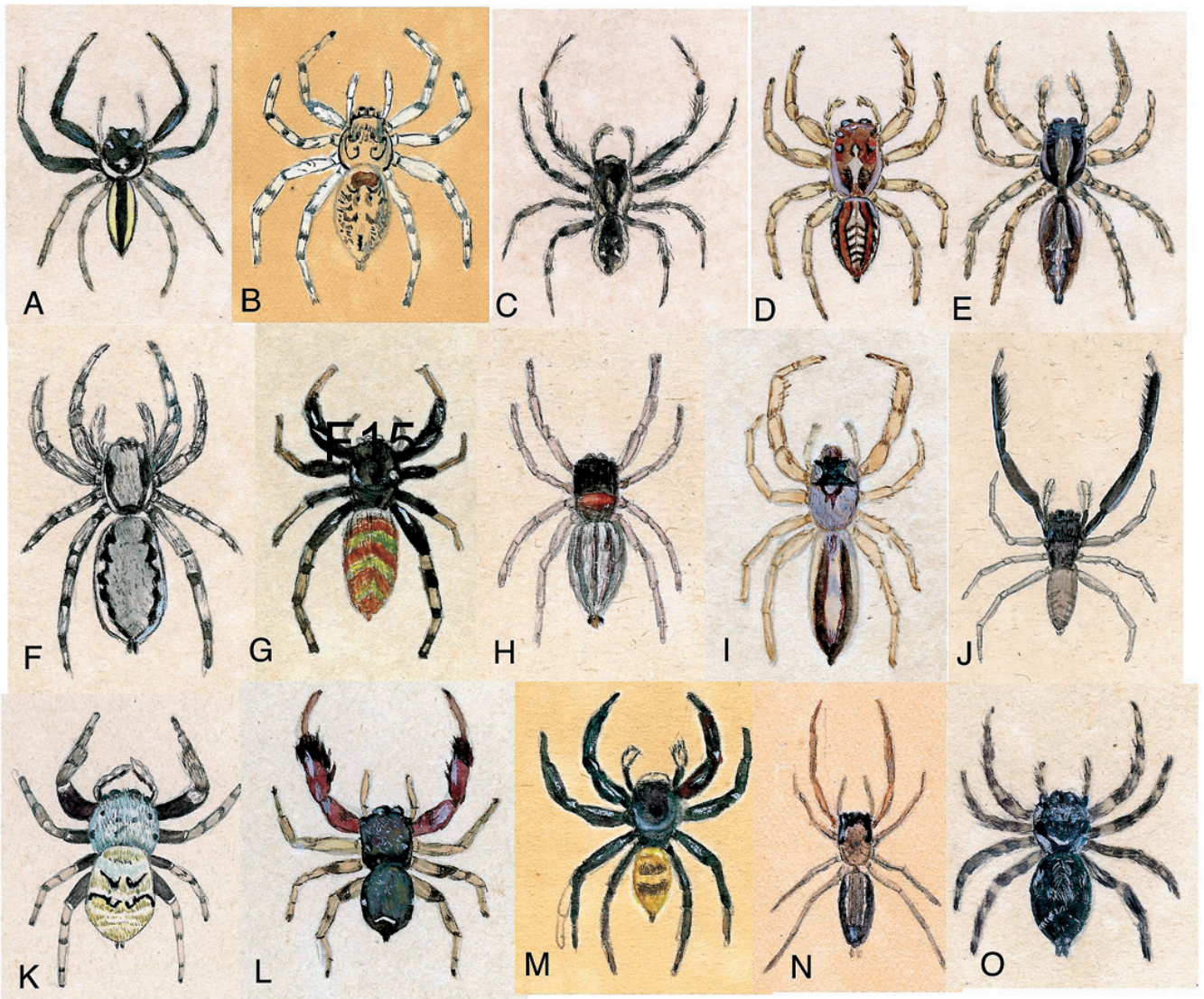


図11. ハエトリグモ科 (続き). A-B: メスジロハエトリ (A, F1; B, F12). C: マダラスジハエトリ (F39). D: デーニッツハエトリ (F28). E: チャスジハエトリ (F26). F: シラヒゲハエトリ (D8). G-H: ヨダンハエトリ (G: F15; F, F32). I: オスクロハエトリ (F7). J: ヤハズハエトリ (C11). K: カラスハエトリ (F30). L: ウデブトハエトリ (F2). M: マミジロハエトリ (F43). N: オオクマアメイロハエトリ (D9). O, *Sibianor* sp. (F42).

Fig. 11. Salticidae (continued). A-B: *Phintella versicolor* (A, F1; B, F12). C: *Plexippoides annulipedis* (F39). D: *Plexippoides doenitzi* (F28). E: *Plexippus paykulli* (F26). F: *Menemerus fulvus* (D8). G-H: *Marpissa pulla* (G: F15; F, F32). I: *Mendoza canestrinii* (F7). J: *Mendoza elongata* (C11). K: *Rhene atrata* (F30). L: *Harmochirus insulanus* (F2). M: *Evarcha albaria* (F43). N: *Synagelides annae* (D9). O: *Sibianor* sp. (F42).

120. *Menemerus fulvus* (L. Koch, 1878) シラヒゲハエトリ (図11F/D8) (高橋, 1939)

[D8] ♀ 「*Menemerus brachygnatus* Thorell 和名未定. 8月中旬自宅の壁にて採る」

【備考】 *Menemerus brachygnatus* (Thorell, 1877) は和名アゴブトハエトリで, 学名・和名とも本種のシノニム. 高橋 (1939) にはシラヒゲハエトリは「*Menemerus confusus* Bösenberg & Strand, 1906 ハエトリグモ」という名称で掲載されている. こちらの学名も本種のシノニム.

121. *Marpissa pulla* (Karsch, 1879) ヨダンハエトリ (図11G-H: 11G/F15; 11H/F32) (高橋, 1939)

[F15] ♀ (+眼域, 腹部腹面) 「*Menemerus pulla* (Karsch) ヨダンハエトリグモ. 8月8日福角山にて採る」

[F32] 幼体 (+腹部末端拡大) 「*Sittx* (sic!) sp. 9月5日福角山林中にて採る. 小さき蜘蛛なり」

122. *Mendoza canestrinii* (Nunni in Canestrini & Pavesi, 1868) オスクロハエトリ (図11I/F07) (高橋, 1939)

[F06] ♂ (+眼域) 「*Icius magister* Karsch ♂, クロハネグモ (オスグロハネグモ). 1936年11月稲田にて採る. 苗代の時より稲の葉に棲む」

[F07] ♀ (+眼域) 「*Icius magister* Karsch クロハネグモ ♀ (ハエトリグモ科). 9月上旬, 潮見村志津川にて捕る」

[G01] ♀ (+眼域) 「(種名未記入) 9月10日採取. 稲の葉にかくるをとる」

【備考】潮見(しおみ)村は堀江村とともに1940年8月以降, 松山市.

123. *Mendoza elongata* (Karsch, 1879) ヤハズハエトリ (図11J/C11) (高橋, 1939)

[C11] ♂ 「珍品 *Meotipa vesiculosa* E. Simon ヒシガタヒメグモ(ヒメグモ科) 1938年7月10日福角山に採取」

【備考】前述したように, ヒシガタヒメグモは高橋氏が堀江村で採集した標本に基づき植村(1939)によって日本新記録として報告された種であるが, 高橋氏が植村氏から最初にその報告を受けた際に誤って本図にその名称を記したものと思われる.

124. *Rhene atrata* (Karsch, 1881) カラスハエトリ (図11K/F30) (高橋, 1939)

[F29] ♀ (+体本体拡大, 側面輪郭) 「(表示種名同じ) 1938年6月26日採取す. 福角山林にて」

[F30] ♂ (+実物大) 「(表示種名同じ) 1939年8月15日福角山にて捕る」

125. *Harmochirus insulanus* (Kishida, 1914) ウデプトハエトリ (図11L/F02) (高橋, 1939)

[F02] ♀ (+眼域) 「*Harmochirus brachiatus* (Thorell) ウデプトハエトリグモ(ハエトリグモ科). 8月20日畑の小豆中にて採取」

【備考】学名は誤同定.

126. *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878) マミジロハエトリ (図11M/F43) (高橋, 1939)

[F03] ♀ 「(表示種名同じ) 10月上旬宮山にて採る」

[F05] ♀ (+腹背の模様) 「*Hyllus lamperti* Boesenberg et Strand ランペルトハエトリグモ. 8月13日, 福角山林にて捕る」

[F43] ♂ 「(種名表示なし) 8月上旬採る」

[G03] ♀ 「(種名表示なし) 8月2日温泉郡潮見小学校にて採る」

[G07] ♀ 「(種名表示なし) 8月12日丑ノ峰にて採る」

[G08] ♀ 幼体 「(種名表示なし) 10月上旬宮山にて捕る」

[G28] ♀ 「(種名表示なし) 10月上旬宮山にて採る」

【備考】*Hyllus lamperti* Boesenberg et Strand ランペルトハエトリグモは本種のシノニム.

127. *Synagelides annae* Bohdanowitz, 1979 オオクマアメイロハエトリ (図11N/D09)

[D09] ♀ (+眼域) 「Genus ? sp. ? 属種未定. 1939年5月27日, 宮山の柴の中にて捕らえる」

[F21] ♀ (+眼域) 「*Myrmarachne* sp. アリグモ. 1939年7月31日, 福角山林中の草の中より捕らえる. 体甚だ小にして, 黄褐色の小なる蟻に酷似す. 動作の稍, 異れるにより知りたり」

□ 種不明の図

[F36] ♀ (+実物大) 「*Sittix* (sic!) sp. 1938年7月10日福角山にて捕る. 植物の腐っている中の隙間に棲む. 色暗褐なれば甚だ見つけがたし」【備考】*Neon* sp. ネオンハエトリ属の1種(池田博明氏同定). 本属は土壌リター中でよく見つかる小型のハエトリグモで数種が記載されている. 愛媛県からは *Neon minutus* Zabka, 1985コガタネオンハエトリのみ生息が確認されているが(鶴崎ら, 2011), 今後複数種見つかる可能性があり, また外見のみでの種までの同定は無理なのでここでは種までの同定は保留する.

[F42] ♀ (+眼域) 「キバラハエトリグモ(ハエトリグモ科) (採集データ未記入)」(図11O)

【備考】池田博明氏より *Sibianor* ツヤハエトリグモ属の1種と同定いただいた. 本属には日本から5種が既知で, 愛媛県では, うち, *Sibianor pullus* (Bösenberg & Strand, 1906) キレワハエトリが小田深山や松山市重信川で記録されている(山本・西川, 2000; 鶴崎, 2002).

[F23] ♀ (+眼域) 「*Myrmarachne* sp. アリグモの1種」【備考】アリグモ属であるが種名決定無理.

[F35] ♀ (+眼域, 体側面輪郭図) 「*Sittix* sp. ハトリグモ(sic!) の1種. 1939年6月14日, 久枝小学校の記念碑の石を徘徊せるものを捕らえる」【備考】コゲチャハエトリグモの1種.

[G02] ♀ 「(種名, 採集データ記載なし)」【備考】ハエトリグモ科だという以上には同定できない.

[G05] ♀ 「(種名, 採集データ記載なし)」【備考】ハエトリグモ科だという以上には同定できない.

Order Opiliones ザトウムシ目

Suborder Eupnoi カイキザトウムシ亜目

Family Sclerosomatidae カワザトウムシ科

Subfamily Gagrellinae Thorell, 1889 フシザトウムシ亜科

1. *Melanopa grandis* Roewer, 1910 オオナガザトウムシ (図12A/B10)

[B10] ♂ (+体腹面, 体側面) 「クロヒトハリザトウ(ザトウムシ科) 10月下旬, 高縄山にて採取. クマザトウムシより遥かに歩脚短し. 体長これに比して長味あり. 虫眼鏡によれば背面は鮫はだの如き或いはコークスの如き感あり. 第2歩脚5節と6節の間に白色となる. 触角の先端節白く, 其の他黒色. 腹部橙赤色ありて関節の横縞らあり. 頭胸部と腹部の境に皺2あり. 其の直前に眼丘あり. 腹背の

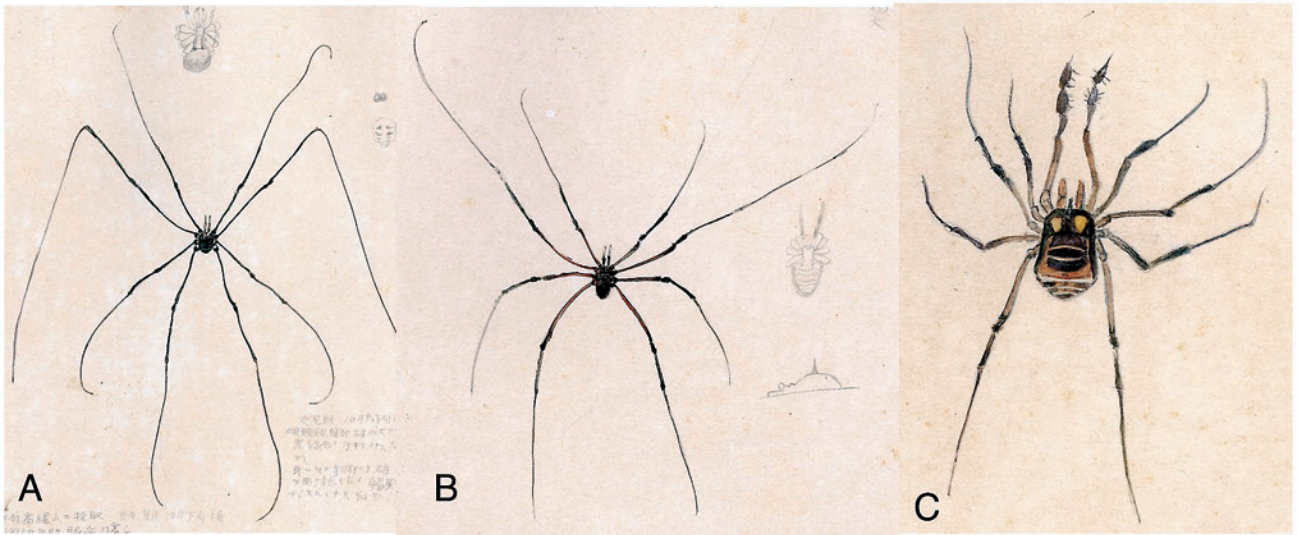


図12. ザトウムシ目. A, オオナガザトウムシ (瀬戸内沿岸型) (B10). B, ヒコナミザトウムシ (B6). C, ニホンアカザトウムシ (B5).
Fig. 12. Opiliones. A: *Melanopa grandis* (Circum-Setouchi race). (B10). B: *Nelima nigricoxa* (B6). C: *Epedanellus tuberculatus* (B5).

中央に突起の大なるが1個あり」

【備考】本種は愛媛県の山地に広く分布する大型のザトウムシ。体のサイズと形、雄の触肢、雌の生殖板などに地理的分化が顕著で、日本本土には3地理型が認識されるが、図は明瞭に瀬戸内沿岸型（鈴木, 1986はこれを *Melanopa satoi* Roewer としている）。この型は九州北部・四国中西部・本州中国地方西部に分布する。腹部背面（第2背板上）に1本の長い針状の棘をもつザトウムシとして高縄山には他に *Gagrellula ferruginea* (Loman, 1902) アカサビザトウムシが生息するが、本種は体が全体に黒茶褐色であることと体が長めであることで容易に区別できる。年1化卵越冬で成体がみられるのは7月初旬から10月まで。腹部がスリムであることでこの図は雄であることがわかる（産卵期の9-10月に雌がこれほどスリムであることはない）。

Subfamily Leiobuninae Banks, 1893

スベザトウムシ亜科

2. *Nelima nigricoxa* Sato & Suzuki, 1939 ヒコナミザトウムシ (図12B/B06)

[B06] ♂ (+体腹面, 眼丘, 腹背) 「クマザトウムシ (ザトウムシ科) 10月下旬高縄山に採取。頭胸部平たく眼丘は高し。交尾期10月中・下旬頃。雌, 頭胸部・腹部雄より大なる。色, 雌は黒緑色の汚きものなり。雄黒き光沢あり。第1第2歩脚にて雄 (注: これは「雌」の書き誤りと思われる) の第1第2脚を固く抱き占め, 触手を生殖門に差し入れるなり。数分にして離る」

【備考】福井県・三重県以西の西日本で比較的低地から高所まで広域にみられる最普通種である。体長や脚長

には地理的変異が目立つ。体の斑紋・色彩にも地理的変異が目立つが、これは最終脱皮からの日齢によっても変化する。この図は全体に黒みが非常に強く、四国産の本種の雄の特徴がよく描かれている。交尾に関する記述があるが、「触手を生殖門に差し入れ」の「触手 (触肢のこと)」は「雄の交尾器 (陰茎)」の見誤りと思われる。本種では雄の触肢は交尾時には雌の第2歩脚基部にかけて雌の体を保持するのが通常である。

Suborder Laniatores Thorell, 1876 アカザトウムシ亜目

Family Epedanidae カマアカザトウムシ科

3. *Epedanellus tuberculatus* Roewer, 1911 オオアカザトウムシ (図12C/B05)

[B05] ♀ (+触肢側面) 「オカヤマムシ。10月宮山のコシダの暗い湿り気のある中を刈り取りて採取。活動鈍し。頭胸部の前方近き所に1個の棘を具う。触手は体の1倍半以上あり、其の先端の2節は紡錘形にして内側に棘を有す。腹部に節あり」

【備考】福井県以西の本州, 四国, 九州の森林林床の落葉リター, 石下などに生息する種である。これに近縁で同所的に生息するがはるかに個体数が多い *Pseudobiantes japonicus* Hirst, 1911 ニホンアカザトウムシ (1930年代の日本語文献では岸田氏が与えた「タンゴムシ」という名称で出ている。やはり岸田氏が *Epedanellus laevis* Roewer, 1911 に対して与え、植村1934が使用した「コヤマムシ」もニホンアカザトウムシの異名である) とは体のサイズがかなり異なるが、外見は酷似しており、触肢腿節の側面の拡大図がないと両者の識別は困難である。B05図には右上に触肢の側面図が出ているが、拡大率が小さく触肢

腿節下面の棘の配列の有無が確認できない。しかし、B05図の右上に表示されている「3倍拡大」という倍率から標本のサイズを推定すると背甲長は4.2 mmであり、微妙であるがオオアカザトウムシと考えるほうが無理がない(ニホンアカザトウムシは3.5-4.0 mm)。松山市内でのこれまでの採集頻度は、ニホンアカザトウムシを1とすると本種は0.2であるが、両種とも松山市福角付近には生息すると考えられるので、[B05]はオオアカザトウムシと判断した。

なお、「オカヤマムシ」という和名はこれまで文献上には現れていないが、本種のタイプ産地が「Okayama」(採集者は Hans Sauter)なので、岸田が本種に対して与えたものと推察される。

高橋幸雄氏の略歴

高橋幸雄氏(図13)のご遺族に取材して判明した同氏の略歴は下記のとおりである:

明治34年(1901年)11月20日。温泉郡堀江村大字福角(現在、松山市福角町)にて、柑橘農家高橋浅蔵・イシ夫妻の長男として生まれる。同地に育ち、愛媛県師範学校に学ぶ。

大正8年(1919年)教員免許を取得、北宇和郡三間村三間小学校(現在は宇和島市)に赴任する。以後、潮見小学校、和気小学校、粟井小学校、久枝小学校(いずれも現在は松山市)等に赴任、教鞭をとるかたわらクモの研究を進める。



図13. 高橋幸雄氏の写真。自宅近くのセンダンの古木の前面にて。撮影時期は不明。

Fig. 13. Yoshio Takahashi in front of a huge old tree of *Melia azedarach* (Meliaceae) near his home in Nakasuji, Fukuzumi-cho, Matsuyama City. The date on which the photo was taken is unknown.

昭和6年(1931年)八木繁一氏が著した「愛媛県動物誌」の蜘蛛類の項に、高橋幸雄氏の研究成果が引用される。これは和名のみでのリストである。

昭和11年(1936年)東亜蜘蛛学会の創立とともに加入、創立会員となる。

昭和14年(1939年)愛媛県産蜘蛛目録を東亜蜘蛛学会の会誌「Acta Arachnologica」に発表する。この頃、地元の新聞に「タカハシツヤグモ」新種記載の記事が掲載され話題となる。

昭和20年(1945年)堀江小学校校長として内示を受けていたが(常磐井 1977)、終戦を機に教職を辞す。以後、営農のかたわらクモの研究を進める。森川國康氏や三好保徳氏など愛媛を拠点に活躍した多足類・倍足類研究者らとの交流は、戦前から晩年まで続いた。

昭和52年(1977年)2月16日没。享年76歳。

以下は補足である。

高橋幸雄氏の生家はもともと県内でもかなり早い時期からの柑橘農家で、国の品評会で賞をとられたりもしていた。経済的にも裕福だったようで、高橋氏は幼少時からバイオリンを習っており、また、観察記録用にドイツ製のカメラを愛用されていたとのことである。図譜には当時としては珍しいクモの生態の接写写真が添付されている図がいくつか見られたが、これらもそのカメラで高橋氏が自ら撮影したものと思われる。

高橋図譜のクモの図は1930年代当時出版されていた湯原(1931)や小松(1936)のクモ図鑑の図と比較して質が非常に高い。とくに瞠目されるのは、その精密な彩色である。原図の多くは実物の2倍拡大程度、つまり、多くは体長で1.5~2 cmほどの大きさにしか描かれていないが、どれほど細い筆を用いればこのように仕上げられるのかと思うほど、斑紋が緻密に描き分けられている。非常に画才に長けた方であったことが窺われる。

ご家族のお話では終戦後も、営農のかたわらクモの研究が続けられていたとのことであるが、戦後は、東亜蜘蛛学会を退会されたことが、1947年3月発行のActa Arachnologica誌Vol. 10, Nos. 1/2の会員消息によって知ることができる(この雑誌は戦後の混乱で1946年中には発行されなかった)。書簡の存在によって、三好保徳氏(1909-1995:略歴・業績については多足類懇談会発行Takakuwaia誌, No.28, 三好保徳博士追悼号1996およびTsurusaki, 1996を参照)や森川國康氏(1919-2009:略歴・業績については日本土壤動物学会発行Edaphologia誌, No.86, 2010および鶴崎, 2009を参照)など愛媛を拠点に活躍したクモガタ類・多足類研究者らとの交流は、戦後も続いていたことがわかるが、実質的な研究活動からは高橋氏はおそらく1939年の「愛媛県産蜘蛛目録」発表後まもなく手を引かれたのではないかとと思われる。

「タカハシツヤグモ」については、前述したように、岸田久吉氏が新種となることを氏が考えた名称とともに高橋氏に伝えたが、記載論文はついに発表されなかった(岸田氏は1968年没)。したがって本種の学名は無効のままで、正体が不明であったため和名も消えてしまった。今回の図の検査により、本種が八木沼健夫氏によって1968年に新種として記載されたヤバネウラシマグモに相当すると推定できた(加村隆英博士のご助力による)ことは著者らにとって喜びである。

なお、在籍期間は重なっていないが、魚類、ザトウムシ類、多足類の分類学で活躍された三好保徳氏、新居浜市に在住し多足類の分類で多大な業績を挙げられた村上好央氏(1925-1997:略歴・業績については、Takakuwaia誌, No.29, 村上好央先生追悼号, 1997を参照)、クナムシ、カニムシ、土壌ダニ類の分類を開拓された森川國康氏はいずれも愛媛県師範学校の卒業生である(森川氏はその後、さらに広島高等師範学校へ進学)。これら3氏とも終戦前から東亜蜘蛛学会に在籍しており、研究材料の選択などにおいて、高橋幸雄氏から何らかの影響を受けることがあったかもしれない。

愛媛県のクモに関して高橋氏に先んじて関心をもっていたと思われる人物として、イヨグモ(岸田 1914, 1913; 森川, 1972; 鶴崎, 2003)の採集者として知られる宇和島市在住の今泉虎雄氏(高橋氏とおなじく東亜蜘蛛学会の創立会員で、退会者名に高橋氏の名前のあるのと同号のActa Arachnologica誌Vol. 10, Nos. 1/2の会員消息に森川國康氏からの通知として同氏が1945年1月20日に病没されたことが記されている)がおられたが、高橋氏と今泉氏の間接点があったかどうかは不明である。今泉氏は残念ながらクモに関する報文を残されていないので、愛媛県のクモ研究の先駆者としての高橋氏の地位は不動である。

謝 辞

高橋(1939)のリストにあるクモの古い名称について、鶴崎は1970年前後に故八木沼健夫博士(当時、追手門学院大学)から数多くのご教示を受けた。今回の高橋(1939)リストの種名の解釈にはそれが大いに役立っている。また、加村隆英(追手門学院大学)、吉田哉(山形県立博物館)、谷川明男(東京大学)、池田博明、初芝伸吾の各氏からは、図からの種の同定に関して専門的な立場から貴重なご教示をいただいた。また、高橋氏の情報探索では、桐木五郎、桐木正文(愛媛県立伊予高等学校)、上田耕三(元愛媛県総合科学博物館、現在愛媛県立松山南高等学校)、乗松敬三(元愛媛県総合科学博物館)の各氏にお世話になった。また、高橋幸雄氏のご子息の高橋泰明氏には、高橋幸雄氏の略歴や図譜に出てくる地名についてご教示いただき、また高橋幸雄氏の写真を拝借した。また、

そもそも、この図譜は高橋泰明氏によって愛媛県立博物館に寄贈されたものだとのことである。それがなければ今回の資料調査は可能にならなかった。以上の方々に厚く御礼申し上げる。

文 献

- Brown, R. W. (1956): Composition of Scientific Words. A manual of methods and a lexicon of materials for the practice of logotechnics. Revised edition. Smithsonian Institution Press, Washington, 882 pp.
- 岸田久吉(1914): 日本産蜘蛛類(12). 科学世界, 8(4): 36.
- 岸田久吉(1927): 多足類・蛛形類. pp. 941-991. In: 内田清之助(編)日本動物図鑑. 北隆館, 2168 pp.
- 岸田久吉(1931): 日本産イヨグモ科に就いて. *Lansania*, 3: 145-150. [ゲラ]
- 岸田久吉(1933): マメイタイセキグモ日本のFaunaに入る. 動物学雑誌, 54: 30.
- 小松 榮(1936): 大日本蜘蛛類図説. 上巻. 蘭山会(東京), 192 pp.
- 小野展嗣(編)(2009): 日本産クモ類. 東海大学出版会(東京), 738 pp.
- 森川國康(1972): 愛媛の動物概説. pp. 63-71. In: 愛媛県高等学校教育研究会(理科教育部会)(編)愛媛の生物.
- Platnick, N. I. (2011): The World Spider Catalog, Version 11.5. <http://research.amnh.org/iz/spiders/catalog/>
- 新海 明・谷川明男(2004): 昔の名前で出ています(クモの古今の和名). *Kishidaia*, No. 85, pp. 23-28.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生(2010): CD日本のクモ ver. 2010
- 新海栄一(2006): 日本のクモ. 文一総合出版(東京), 335 pp.
- 鈴木正将(1986): 広島県のザトウムシ類. 比婆科学, No. 132, pp. 7-45.
- 高橋幸雄(1939): 愛媛県産蜘蛛目録. *Acta Arachnologica*, 4: 146-152.
- 谷川明男(2010): 日本産クモ類目録ver. 2010R2. (<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan>)
- 常磐井忠伽(1977): 静の人.ひ(愛媛県師友会ひの会), No. 231, p. 7.
- Tsurusaki, N.(1996): Obituary: Yasunori Miyosi (1909-1995). *Bulletin du Centre International de Myriapodologie*, No. 29, pp. 5-6.
- 鶴崎展巨(2002a): クモガタ類・多足類. pp. 108-113. In: まつやま自然環境調査会(編)レッドデータブックまつやま2002. 松山市における絶滅のおそれのある野生生物. 松山市環境部. 246 pp.
- 鶴崎展巨(2002b): 松山市産クモ類・ザトウムシ類・ヤスデ類目録. pp. 139-152. In: まつやま自然環境調査会

- (編) 松山市野生動植物目録2002. 松山市環境部環境保全課, 270 pp.
- 鶴崎展巨 (2003): クモガタ類・多足類. pp. 179-189. In: 愛媛県貴重野生動植物検討委員会 (編) 愛媛県レッドデータブック —愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 447 pp.
- 鶴崎展巨 (2009): 訃報 森川國康先生 (1919-2009). *Acta Arachnologica*, 58 (2): 112-114.
- 鶴崎展巨・石川春子・井原 庸 (2011): 愛媛県のクモ類, 愛媛県総合科学博物館研究報告, No.16, pp. 33-57.
- 植村利夫 (1939): 蜘蛛研究室彙報 (3). *Meotipa vesiculosa* E. Simon 愛媛県に産す. 伊予高縄山の蜘蛛. *Acta Arachnologica*, 4: 113-116.
- 植村利夫 (1943): 愛媛県北宇和郡好藤村の蜘蛛. *Acta Arachnologica*, 8: 37-38.
- 植村利夫 (1957): 体色の変化するクモ2種に就いて. *Acta Arachnologica*, 15: 1-10. + plate 1.
- 八木繁一 (1931): 愛媛県動物誌. 松山堂書店 (松山市).
- 八木沼健夫 (1975): 湯原清次氏著「蜘蛛の研究」について. —この書を使用される人のために—. *南紀生物*, 17: 1-6.
- 八木沼健夫 (1988): 黎明期の日本のクモ学③日本のクモ学を育てた出版物. *日本の生物*, 2 (2): 17-20.
- 湯原清次 (1931): 蜘蛛の研究. 総合科学出版協会 (東京), 305 pp.